

CCVSR

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CCVSR 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2013 年 11 月 19 日

ファームウェア Ver. 1.0.062 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30 日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は2007 年9 月1 日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は1 年間です。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。が、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC.....	5
RoHS.....	5
SJ/T 11364-2006	5
安全にお使い頂くために.....	6
全般	6
同梱品.....	7
本マニュアルについて.....	8
マニュアル表記について.....	10
第1章 はじめに.....	11
概要	11
特長	13
システム要件.....	14
コンピューター	14
IP-KVM スイッチ	14
ブラウザ.....	14
ライセンス.....	15
プライマリサーバー	15
セカンダリサーバー	15
アーカイブサーバー	15
ノード	15
ライセンスのオプション	16
ノードオプションの追加.....	17
第2章 VSR のインストール	18
概要.....	18
VSR ソフトウェアのインストール	18
インストールの開始	18
ライセンス	20
第3章 VSR アプリケーション	21

概要	21
VSR のログイン	21
VSR メイン画面	23
セッション	23
システムログ	24
設定	25
メンテナンス	27
ライセンス	28
第 3 章 VSR アプリケーション	29
概要	29
VSR のログイン	29
VSR メイン画面	32
セッション	32
システムログ	33
設定	34
メンテナンス	36
ライセンス	37
第 4 章 VSR アーカイブサーバー	38
概要	38
VSR アーカイブサーバーのインストール	38
ライセンス	41
アーカイブサーバー GUI	42
セットアップ	42
再生	43
エクスポート/インポート	45
ストレージ	48
設定	49
ライセンス	50
第 5 章 ユーザーインターフェース	51
概要	51
ブラウザログイン	51
Web ブラウザメイン画面	53
画面構成要素	53
タブバー	54
第 6 章 再生	56
概要	56

ビデオ検索	56
ポートリスト	57
フィルター	57
詳細検索	58
セッション	59
ビデオログビューア	60
第7章 ユーザー管理	63
概要	63
ユーザー	64
ユーザーの追加	64
ユーザーアカウントの編集	68
ユーザーアカウントの削除	68
グループ	69
グループの作成	69
グループの編集	70
グループの削除	71
ユーザーとグループ	72
ユーザータブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合	72
ユーザータブを使ってグループからユーザーを削除する場合	73
グループタブを使ってユーザーをグループに登録する場合	74
グループタブを使ってグループからユーザーを削除する場合	75
デバイスの割り当て	76
ユーザータブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合	76
グループタブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合	77
システム設定権限	78
ユーザータブからシステム設定権限を割り当てる	78
グループタブからシステム設定権限を割り当てる	79
第8章 デバイス管理	80
概要	80
KVM デバイスの追加	82
KVM デバイスのビデオセッションを有効にする	82
KVM ポートの設定	83
KVM デバイスの削除	84
第9章 ログ	85
概要	85
最新ログ	85

ログの検索.....	86
通知設定.....	88
第 10 章 システム管理	89
概要.....	89
システム情報	90
VSR-ローカル	90
ネットワーク	91
AMNS	92
セキュリティ	97
ビデオセッションレコーダー	104
ログサーバー	106
第 11 章 個人設定	108
概要.....	108
付録.....	110
製品仕様.....	110
対応 IP-KVM スイッチ	111
Windows XP へのインストール	112
信頼された証明書	113
概要	113
自己署名(プライベート)証明書	114
例.....	114
ファイルのインポート	115

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC (米国連邦通信委員会) 規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 SJ/T 11363-2006 规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T 11363-2006 的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T 11363-2006 的限量要求。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と書かれた RJ-11 コネクターを公衆通信網に接続しないようにしてください。

同梱品

ビデオセッションレコーダー (CCVSR) 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- | | |
|----------------------------|----|
| ◆ ビデオセッションレコーダーUSB ライセンスキー | ×1 |
| ◆ ソフトウェア CD | ×1 |
| ◆ クイックスタートガイド | ×1 |

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、ビデオセッションレコーダーCCSVR に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章 はじめに:**ビデオセッションレコーダーCCSVR を紹介します。特長および機能の概要およびシステム要件について説明します。
- 第2章 VSR のインストール:**ビデオセッションレコーダーCCSVR ソフトウェアのインストール手順について説明します。
- 第3章 VSR アプリケーション:**V ログアプリケーションの使用方法和、その特長および機能について説明します。
- 第4章 VSR アーカイブサーバー:**VSR アーカイブサーバーの使用方法和その特長や機能について説明します。
- 第5章 ユーザーインターフェース:**Web ブラウザを使用してビデオセッションレコーダーにログインする方法について説明します。
- 第6章 再生:**ビデオログファイルの検索および動作に使用する再生画面の特長と機能、およびその使用方法について説明します。
- 第7章 ユーザー管理:**スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターによるユーザーとグループの作成、修正、削除、およびそれらに対する操作権限の割り当て方法について説明します。
- 第8章 デバイス管理:**スーパーアドミニストレーターがビデオログを記録するために、ビデオセッションレコーダーで KVM デバイスを追加し、ポートを設定する方法について説明します。

第9章 ログ:ビデオセッションレコーダーで発生したイベント情報を見るためのログファイルユーティリティの使用方法について説明します。

第10章 システム管理:システム情報、ネットワーク、ANMS、セキュリティおよびビデオセッションレコーダーの設定を行うためのシステム管理画面の使用方法について説明します。

第11章 個人設定:ログイン中のユーザーのユーザー設定方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

ビデオセッションレコーダーは ALTUSEN KN2xxx/4xxx シリーズの IP-KVM スイッチ製品と併用して、KVM ポートに接続しているコンピューターのビデオと動作を安全かつ確実に記録できるように ATEN が開発した革新的なソフトウェアです。このソフトウェアはディスプレイ映像を記録するだけでなく、キー入力やマウスクリックといった操作も記録することができます。また、特定のサーバーポートの監査や管理を便利にかつ安全に行えるように、その操作を自動的に記録し、管理することもできます。

ビデオセッションレコーダーは複数台の IP-KVM スイッチを記録し、動作中の KVM ポートを最大 12 ポートまで同時に記録することができます。特別なビデオプレーヤーツール、暗号化されたファイル形式、およびユーザー操作権限設定によって、権限のあるユーザーだけが記録された動画や操作ログを閲覧、検索および削除することができます。そして、自動化された機能の管理方法をカスタマイズすることで、最高レベルのセキュリティを確保することができます。

さらに、ビデオセッションレコーダーには強力な検索機能が備わっており、記録されたビデオや操作ログは時間別、デバイス別、またはポート別に検索することができます。検索した記録の再生時には、ビデオに加え、コンピューターにログインしたユーザーによって行われた（マウスクリックやキー入力といった）操作も記録された時間別に表示されるため、簡単にモニタリングを行い、詳細な管理や監査の効率を上げることができます。

ビデオセッションレコーダーは参照や教育用のビデオを作成するのに便利なツールです。例えば、各支店のサーバーで複雑なアップデートが要求される場合、アドミニストレーターは、画面に正確なキー入力とマウスクリックを表示させることによって、各手順がわかる教育用ビデオを簡単に作成し、そのビデオをアップデートが必要な支店に送ることができるため、教育やサポートを行う時間を削減することができます。ソフトウェアやネットワークのトレーニングや導入、インストール、設定、システムのアップデートや教育に関連したコンピューター用にビデオを作成することができます。その他の利点としては、KVM ポートにアクセスした際に記録用のビデオが作成されて自動的に保存されることと、セキュリティとしてパスワードの保護を行うことができます。

ビデオセッションレコーダーを KVM スイッチに組み込むことで、サーバールームのセキュリティを自動化し、効率よく監査を行うことができるようになります。

特長

- ◆ リモートユーザーがKVMポートにアクセスした際のコンピューターの動作記録を自動的、完全に作成 - 検索に便利のようにインデックス付きのデータベースとして保存
- ◆ 高解像度のビデオ記録が可能 - 最大で 16 ビット色深度、解像度 1600×1200 に対応
- ◆ 複数の KN2xxx/4xxx シリーズの IP-KVM スイッチを対象に記録が可能
- ◆ 複数の KVM ポートにおける操作状況は同時に記録・再生が可能*
- ◆ ビデオ記録はキーワードフィルターで検索可能
- ◆ 専用ビデオプレーヤーでしか再生できない独自仕様フォーマット、また、記録した動画のエクスポート機能やパスワード保護機能によって、セキュリティを強化
- ◆ IP フィルター機能でセキュリティを強化
- ◆ SMTP メールによるシステムイベント通知機能。SNMPトラップおよび Syslog 対応
- ◆ ユーザーおよびグループの操作権限は設定可能 - 検索、再生、システム管理、レコード管理、記録管理
- ◆ ポートレベルの操作権限 - ユーザーは権限のあるポートのみ参照可能
- ◆ デバイスレベルのイベントログに対応
- ◆ アーカイブサーバー対応
- ◆ 多言語 GUI 対応 - 日本語、英語、中国語(繁体字/簡体字)、韓国語
- ◆ 各種ブラウザに対応 - Internet Explorer、Chrome、Firefox、Safari、Opera
- ◆ ブラウザからのユーザーログインは、SSL 128 ビット暗号化通信および RSA 1024 ビット証明書によって保護
- ◆ サードパーティーの外部認証に対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、Microsoft Active Directory

*CCVSR サーバーのシステム要件を満たしている環境では、最大 12 の KVM セッションを記録することができます。

システム要件

コンピューター

ビデオセッションレコーダーをインストールするシステムには、下記のシステム要件が必要です。

◆ ハードウェア環境

- 最小/4 ビデオセッション - Intel® Pentium 4、2.6GHz、2G RAM
- 最大/12 ビデオセッション - Intel® Intel Core™ i5、2.5GHz、4G RAM
- ハードドライブ - 500MB 以上の空き容量
- メモリー - DDR3 2GB RAM
- イーサネット - (100Mbps 以上の)イーサネットアダプター×1(最低) - ギガ LAN 推奨

◆ OS

- Windows XP、7、2003、2008

IP-KVM スイッチ

ビデオセッションレコーダーにて記録されるコンピューターは IP-KVM スイッチ (p.111「対応 IP-KVM スイッチ」参照)に接続されていなければなりません。

ブラウザ

ユーザーがビデオセッションレコーダーにログインするのに対応するブラウザは下表の通りです。

ブラウザ	バージョン
Chrome	20.0.1 以降
IE	6 以降
Firefox	1.5 以降
Opera	11.64 以降
Safari	6.0 以降

ライセンス

CCVSR ライセンスでは、CCSVR のセットアップにて、許可されたプライマリサーバー、セカンダリサーバー、アーカイブサーバーおよびノードの数を管理します。ライセンス情報は、CCVSR のご購入時に付属する USB ライセンスキーに含まれています。配置例の詳細は、p.16「CCVSR 配置例」を参照してください。

CCVSR ソフトウェアのインストールが完了すると、ご購入したライセンス数が自動的に追加されます。更にライセンスを追加する場合は、ライセンスをアップグレードしなければなりません。詳細は、p.28「ライセンスのアップグレード」を参照してください。

プライマリサーバー

管理 - プライマリサーバーは CCVSR セットアップ機器のあらゆる面における記録、参照、および管理に使用される中心となる管理ソフトウェアです。全てのセカンダリサーバー、アーカイブサーバー、およびノードはプライマリサーバーを通して動作します。

セカンダリサーバー

ストレージ - セカンダリサーバーは、限られた設定機能を有し、プライマリサーバーの作業負荷を削減し、拡張ストレージを提供します。

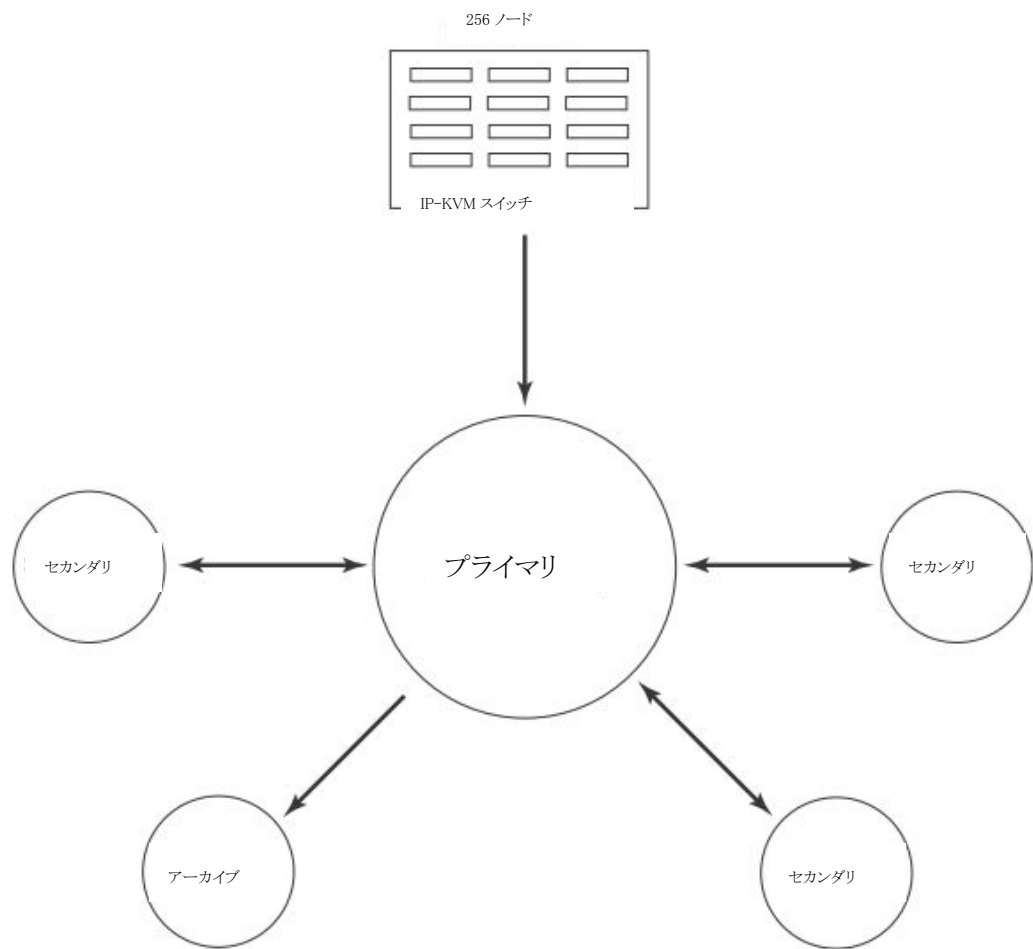
アーカイブサーバー

アーカイブ - アーカイブサーバーは、プライマリサーバーで作成された全てのビデオログファイルを拡張バックアップおよび参照ができるように、個別に整理されたデータベースへ自動的にアーカイブに保管します。アーカイブサーバーを使用して、VSR システムとは別に、大容量のデータベースのインポート、エクスポート、および割り当てを行うことができます。

ノード

KVM ポート - ノードとは、IP-KVM スイッチの物理的ポートのことです。ビデオログを記録させたいノードそれぞれについて、ライセンスが必要です。

CCVSR 配置例



ライセンスのオプション

型番	ノード	プライマリ
CCVSR8	8	1
CCVSR16	16	1
CCVSR32	32	1
CCVSR64	64	1
CCVSR128	128	1
CCVSR256	256	1
CCVSR512	512	1
CCVSR1024	1024	1
CCVSR2048	2048	1
CCVSRUnlimited	無制限	1

ノードオプションの追加

型番	ノード
CCVSRN1	1
CCVSRN8	8
CCVSRN16	16
CCVSRN32	32
CCVSRN64	64
CCVSRN128	128
CCVSRN256	256
CCVSRN512	512
CCVSRN1024	1024
CCVSRN2048	2048

第2章 VSR のインストール

概要

本章ではビデオセッションレコーダー(VSR)をコンピュータにインストールする方法について説明します。VSR アプリケーションは動作するビデオセッションレコーダー用のバックグラウンドサービスを実行し、基本的なサーバーセットアップを設定するために使用されます。ビデオセッションレコーダーの Web ブラウザ機能を使用するには、VSR アプリケーションが動作していなければなりません。

VSR ソフトウェアのインストール

インストールの開始

Windows システムに VSR アプリケーションをインストールするには、下記の作業を行ってください。

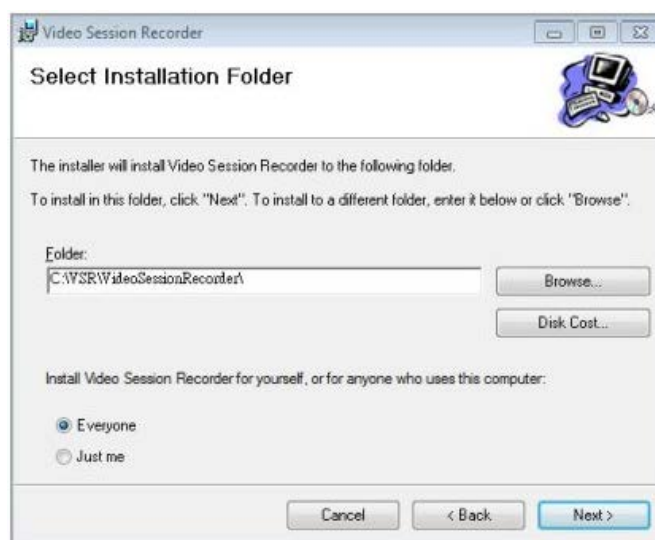
Windows XP を搭載しているコンピュータにインストールする場合は、まず、IPv6 をインストールしてください。詳細は、p.112「Windows XP へのインストール」を参照してください。

1. 本製品に同梱されているソフトウェア CD をコンピュータの CD ドライブに入れてください。
2. 「setup.exe」があるフォルダーを開き、それを実行してください。下図のような画面が表示されます。



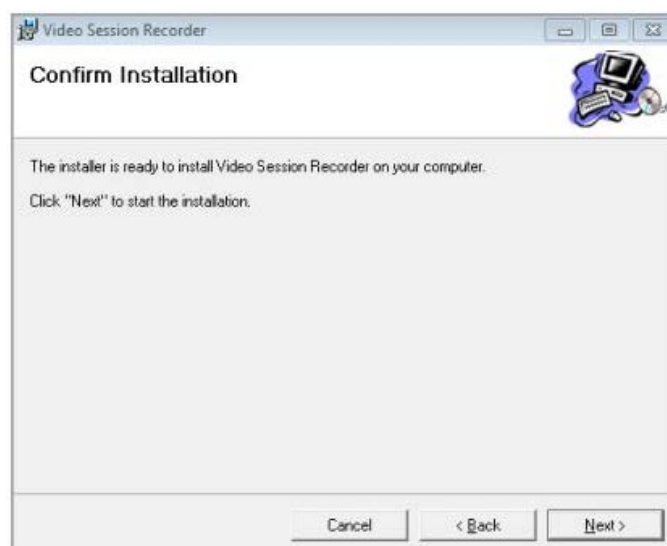
「次へ」をクリックして続けてください。

3. 「Select Installation Folder」ダイアログボックスで、インストールするフォルダーを特定してください。または、「参照」をクリックして、インストールする場所を選択してください。次に、インストールしたソフトを自分しか使用しない場合は「Just me」を選択し、このコンピューターを使用する人なら誰でも使えるようにする場合は「Everyone」を選択してください。
- 利用可能なドライブとディスクの空き容量を見るには「Disk Cost」を選択することもできます。



「次へ」をクリックして続けてください。

4. 「Confirm Installation」(インストールの確認)画面が表示されたら、「次へ」をクリックして続けてください。



5. インストールが完了すると、下記のメッセージが表示されます。



ライセンス

VSRソフトウェアのインストールが完了すると、サーバー1台につき、デフォルトのライセンスが1つ自動的に付与されます。ビデオセッションレコーダーをさらに追加する場合は、ライセンスをアップグレードしなければなりません。ライセンスをアップグレードする方法の詳細については、p.28「ライセンス」を参照してください。ライセンスオプションの詳細については、p.16「ライセンスのオプション」を参照してください。

第3章

VSR アプリケーション

概要

ビデオセッションレコーダー(VSR)アプリケーションは、VSR アプリケーションが動作するビデオセッションレコーダー用のバックグラウンドサービスを実行して、ログの参照、サーバーの基本設定やメンテナンス作業のバックアップ/リストアを実行することができます。VSR アプリケーションはビデオセッションレコーダーを実行するサービスを開始し、Webブラウザセッション内で管理機能を行うことができます(p.51「第5章ユーザーインターフェース」参照)。本章では、VSR アプリケーションの機能について説明します。

VSR のログイン

VSR を起動し、アプリケーションにログインするには、下記の作業を行ってください。

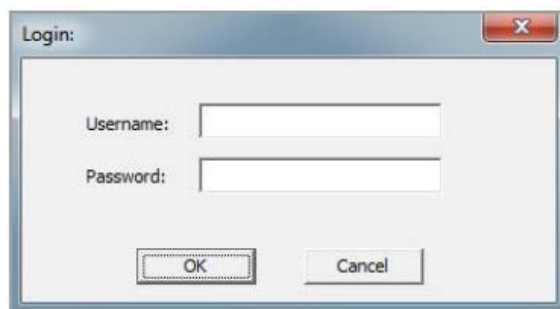
1. スタートメニューまたはデスクトップから VSR ショートカットをダブルクリックしてください。



手順2を行うと、上図のような VSR アイコンがタスクバーに表示されます。

2. 初めて VSR アプリケーションを開く場合、「Config Server Type」画面(詳細は p.25「サーバーの種類」参照)が表示されるので、種類を設定してから「OK」をクリックしてください。

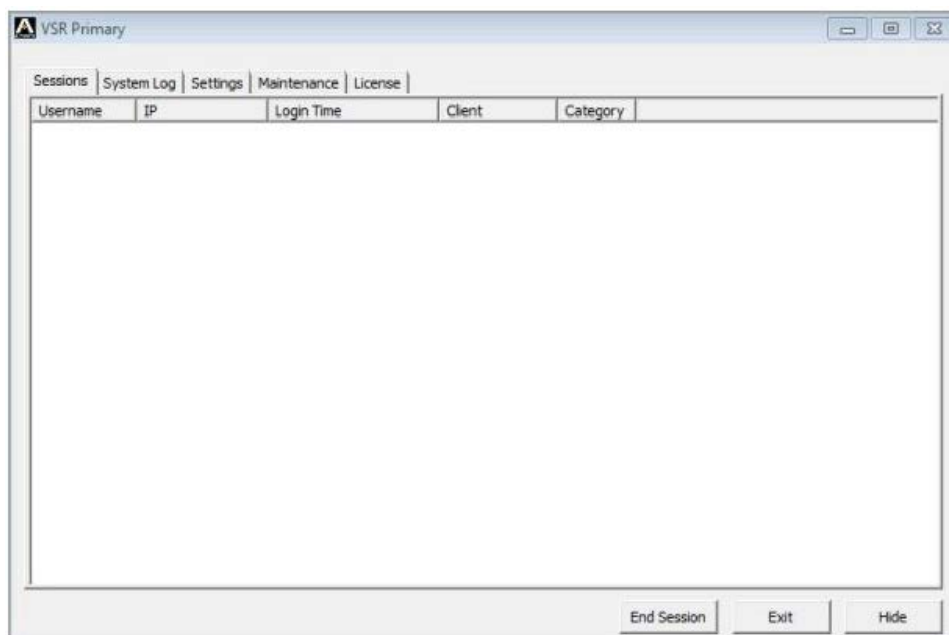
- 次に、タスクバーから VSR アイコンをクリックしてください。認証画面がモニターに表示されたら、ユーザーネームとパスワードを入力してください。



A screenshot of a 'Login:' dialog box. It has a title bar with a close button (X). Inside, there are two text input fields: 'Username:' and 'Password:'. Below the fields are two buttons: 'OK' and 'Cancel'.

初回ログインの場合は、デフォルトのユーザーネーム「administrator」およびパスワード「password」を入力してから、「OK」をクリックしてください。

- ログインすると、メイン画面が表示されます。



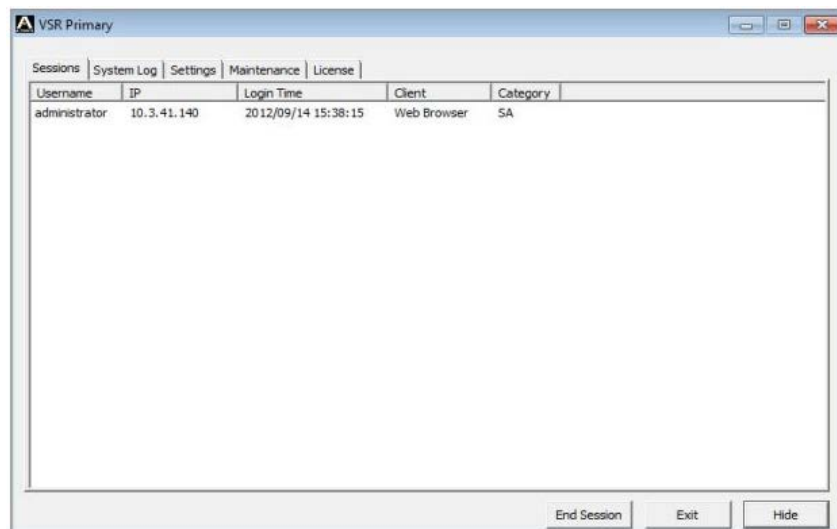
A screenshot of the 'VSR Primary' application window. The title bar says 'VSR Primary'. Below the title bar is a menu bar with 'Sessions', 'System Log', 'Settings', 'Maintenance', and 'License'. Below the menu bar is a table with columns: 'Username', 'IP', 'Login Time', 'Client', and 'Category'. The table is empty. At the bottom right of the window are three buttons: 'End Session', 'Exit', and 'Hide'.

VSR メイン画面

VSR メイン画面が開くと、「Session」(セッション)、「System Log」(システムログ)、「Maintenance」(メンテナンス)、「Settings」(設定)、および「License」(ライセンス)という 5 つのタブを選択することができます。各ページから「Exit」(終了)をクリックすれば、ビデオセッションレコーダーの作業全てを中止し、VSR アプリケーションをシャットダウンしてログアウトすることができます。「Hide」(隠す)をクリックすると、VSR アプリケーションをタスクバーに最小化しながら動作を続け、ログアウトすることができます。設定を保存する必要がある場合はいつでも、VSR はその変更を有効にするために自動的にシャットダウンするので、アプリケーションを再起動する必要があります。

セッション

「Session」(セッション)タブでは、現在どのユーザーがメインビデオセッションレコーダーのブラウザインターフェースにログインしているかを一覧することができ、各セッションに関する情報が表示されます。

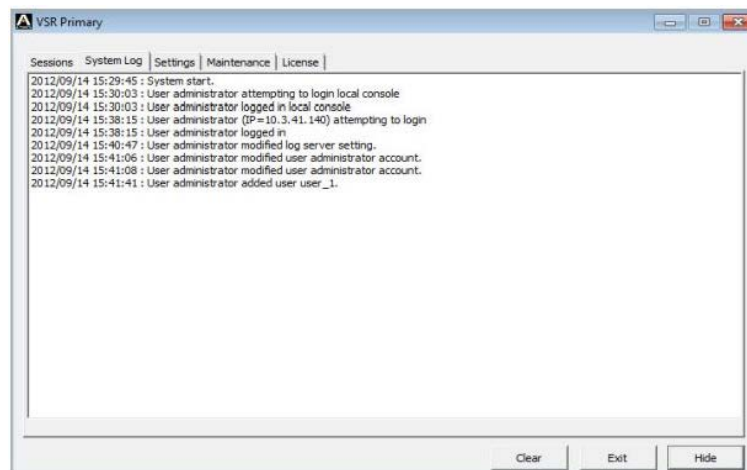


各見出しの意味はほぼそのままの意味です。「IP」という見出しではユーザーがログインしている IP アドレスを、「Login Time」(ログイン時刻)では、ユーザーがいつビデオセッションレコーダーにログインしたかを、「Category」(カテゴリ)ではログインしたユーザーのタイプを表示します。

この画面で、アドミニストレーターはユーザーを選択した後、この画面の下部にある「**End Session**」(セッションの終了)をクリックして、そのユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。

システムログ

「System Log」(システムログ)タブでは、ビデオセッションレコーダーで発生したログイベントの詳細を表示します。

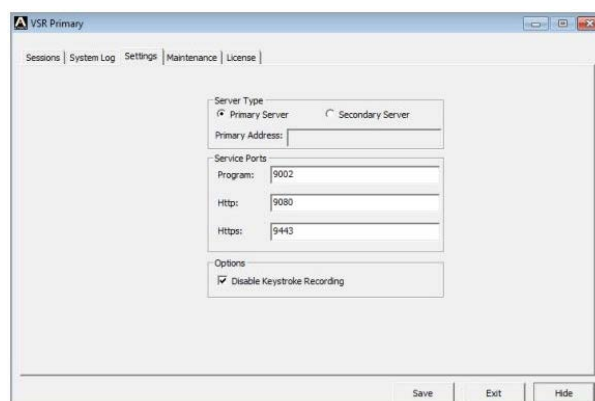


システムログでは、時間、ユーザー、発生した各イベント内容の明細を表示します。ログファイルは最大 512 イベントまで追跡することができます。この数を超えると、新しいイベントが発生した際に最も古いイベントが削除されます。

システムログ全てを消去するには、「**Clear**」(消去)をクリックしてください。

設定

「Setting」(設定)タブでは、ビデオセッションレコーダーをローカルデバイスで、「Primary Server」(優先サーバー)または「Secondary Server」(代替サーバー)としていかに機能させるかを決定する際に使用します。本タブにはセクションが 2 つあります。



サーバーの種類

「Primary Server」(プライマリサーバー)

メインのビデオセッションレコーダーとして動作するコンピューターは「Primary Server」(プライマリサーバー)を選択してください。このコンピューターはホストコンピューターであり、ビデオセッションレコーダーのあらゆることを管理します。ビデオログファイルのストレージを拡張するために「Secondary Server」(セカンダリサーバー)として稼働中のコンピューターを追加することもできます。

「Secondary Server」(セカンダリサーバー)

コンピューターをプライマリサーバーからのビデオログファイルの保存用スペースとして使用する場合は、「Secondary Server」(セカンダリサーバー)を選択してください。そのコンピューターの機能はセカンダリサーバーとしてプライマリサーバーのためにビデオログファイルを保存することのみであり、VSR アプリケーションにログインすると、「Setting」(設定)タブのみが利用可能となります。このオプションを選択して以下の項目を入力してください。

- ◆ 「Primary Address」(プライマリアドレス) - プライマリビデオセッションレコーダーとして動作するコンピューターの IP アドレスを入力してください。
- ◆ 「Service Port」(サービスポート) - プライマリサーバーのプログラムサービスポート番号を入力してください。この機能のデフォルトサービスポート番号は 9002 です。

セカンダリサーバーを動作させるには、プライマリサーバーに追加されなければなりません。詳細は p.101「ビデオセッションレコーダー」を参照してください。

サービスポート

セキュリティの観点から、ファイアーウォールを使用している場合、アドミニストレーターはファイアーウォールが許可するポート番号を設定しなければなりません。デフォルト以外のポートを使用する場合、ユーザーはログインの際にIPアドレスの一部としてポート番号を入力しなければなりません。無効なポート番号を入力した場合やポート番号を入力していない場合、ビデオセッションレコーダーは見つかりません。各項目の説明は下表の通りです。

項目	説明
Program	これはビデオセッションレコーダーをホスティングするプライマリサーバーに接続するためのセカンダリサーバーを設定するポート番号です(詳細は p.25 参照)。デフォルトは 9002 です。
HTTP	ブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは 9080 です。
HTTPS	セキュアブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは 9443 です。

例: セキュアブラウザログイン (https) を使用して IP アドレスが「192.168.0.100」であるビデオセッションレコーダーにアクセスする場合、下記を入力してください。

https://192.168.0.100:9443

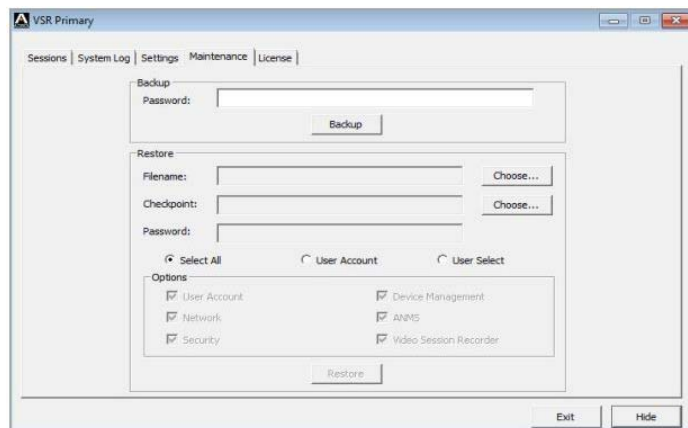
注意:	<ol style="list-style-type: none">1. 各サービスポートで有効な値は 1～65535 です。2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
------------	---

キー入力記録の有効/無効

このボックスにチェックを入れると、ビデオセッションレコーダーは、ビデオセッションが記録されている間にコンピューターで行われたキー入力を記録しません。(詳細は p.62「コントロールパネル」参照)。

メンテナンス

「Maintenance」(メンテナンス)タブはシステム設定のバックアップおよびリストアを行う際に使用し、ファイルまたはシステムへのユーザーアカウント情報は「Checkpoint」(チェックポイント)を作成します。このタブにはセクションが2つあります。



バックアップ

バックアップファイルを作成するには、パスワードを入力してから「Backup」(バックアップ)をクリックしてファイルを保存してください。パスワードを使用しない場合は、「Password」(パスワード)の欄を空白のままにしてください。保存されたデータファイルには現在のシステム設定及びユーザーアカウント情報の全てが含まれています。

リストア

データをリストアするには、チェックポイントを作成したシステムをリストアした「File Name」(ファイル名)または「Checkpoint」(チェックポイント)を選択して、「Choose」(選択)をクリックしてください。ファイルをリストアする場合、「Password」(パスワード)にパスワードを入力してから「Restore」(リストア)をクリックしてください。

データをリストアするのにファイル名を使用する場合、リストアしたいデータのタイプを選択してください。

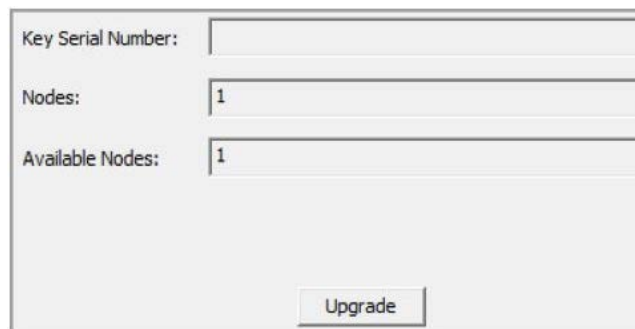
「Select All」(全て選択) - バックアップファイルからのデータ全てをリストアします。

「User Account」(ユーザーアカウント) - バックアップファイルからユーザーアカウントに関するデータのみリストアします。

「User Select」(ユーザー選択) - リストアしたいデータ(ユーザーアカウント、ネットワーク、セキュリティ、デバイス管理、ANMS、およびビデオセッションレコーダー)のみリストアします。

ライセンス

「License」(ライセンス)タブはソフトウェアをアップグレードし、サーバーライセンスを追加する際に使用します。



ライセンスのアップグレード

ライセンスでは、購入したノードの全数と使用していない**利用可能なノード**を管理し、ビデオセッションレコーダーでの使用を許可します。ライセンス情報は同梱の USB ライセンスキーに含まれています。

VSR ソフトウェアのインストールが完了すると、プライマリサーバー1 台に対してデフォルトのライセンスが自動的に付与されます。ビデオセッションレコーダーのノードを更に追加する場合は、ライセンスをアップグレードしなければなりません。

ライセンスをアップグレードするには下記の作業を行ってください。

1. 同梱の USB キーを使用するか、追加したいプライマリ/セカンダリサーバーの台数分の新しいライセンスキーを購入してください。
2. ビデオセッションレコーダーの USB ポートにライセンスキーを接続してください。
3. VSR アプリケーションにログインし、ライセンスタブから「**Upgrade**」(アップグレード)をクリックしてください。
4. これで(購入されたライセンス数分の)ビデオセッションレコーダーをインストールし、ネットワークを通じて通信および動作することができるようになります。

注意:

1. アップグレードが完了したら、キーを USB ポートに接続しておく必要はありません。キーを取り外し、今後のアップグレードの際には使用できるように安全な場所に保管してください。
2. USB ライセンスキーを紛失してしまった場合、販売店にて別途お求めください。紛失したキーのシリアルナンバーをご提供いただければ、新しいキーには紛失したキーに保存された情報を含むことができます。

第3章

VSR アプリケーション

概要

ビデオセッションレコーダー(VSR)アプリケーションは、VSR アプリケーションが動作するビデオセッションレコーダー用のバックグラウンドサービスを実行して、ログの参照、サーバーの基本設定やメンテナンス作業のバックアップ/リストアを実行することができます。VSR アプリケーションはビデオセッションレコーダーを実行するサービスを開始し、Webブラウザセッション内で管理機能を行うことができます(p.51「第5章 ユーザーインターフェース」参照)。本章では、VSR アプリケーションの機能について説明します。

VSR のログイン

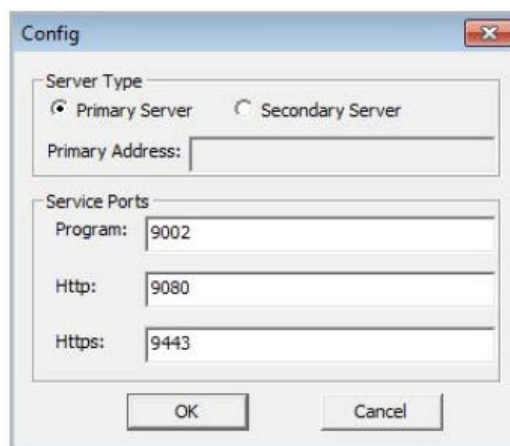
VSR を起動し、アプリケーションにログインするには、下記の作業を行ってください。

1. スタートメニューまたはデスクトップから VSR ショートカットをダブルクリックしてください。



手順2を行うと、上図のような VSR アイコンがタスクバーに表示されます。

2. 初めて VSR アプリケーションを開く場合、「Config Server Type」画面(詳細は p.25「サーバーの種類」参照)が表示されるので、種類を設定してから「OK」をクリックしてください。



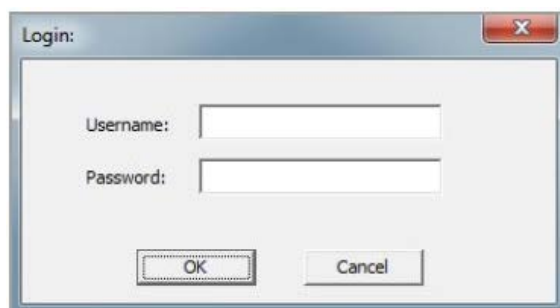
3. 下図のように VSR サービスオプションが 2 つ記載された「**Config**」(設定)ダイアログボックスが表示されます。



Register VSR Service: このオプションは、バックグラウンドでソフトウェアを動作させるようにするために、Windows OS で VSR サービスをインストールして登録します。

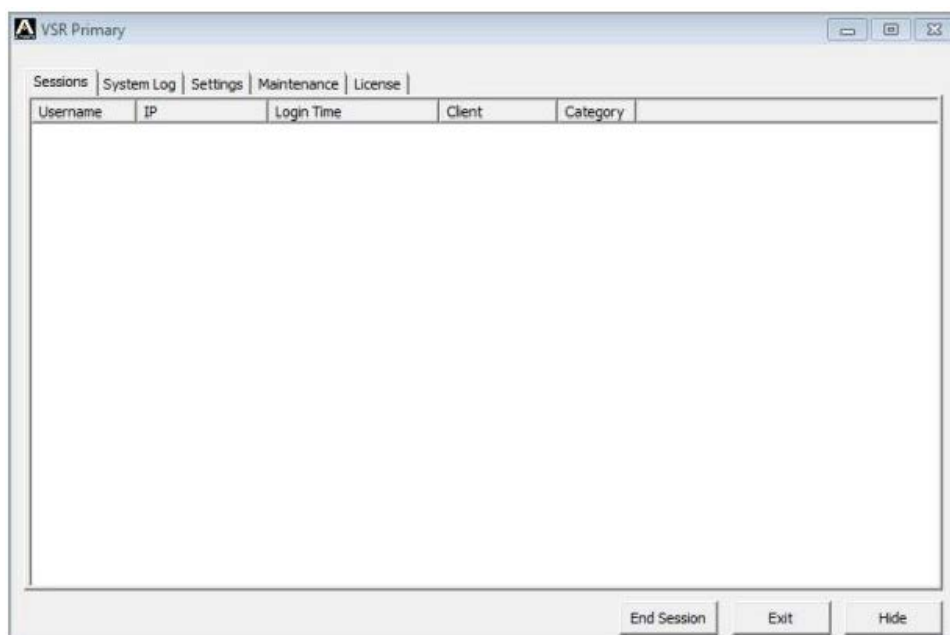
Start VSR Service: このオプションはインストールが完了後、自動的に VSR サービスを起動させます。

4. 次に、タスクバーから VSR アイコンをクリックしてください。認証画面がモニターに表示されたら、ユーザーネームとパスワードを入力してください。



初回ログインの場合は、デフォルトのユーザーネーム「administrator」およびパスワード「password」を入力してから、「OK」をクリックしてください。

5. ログインすると、メイン画面が表示されます。

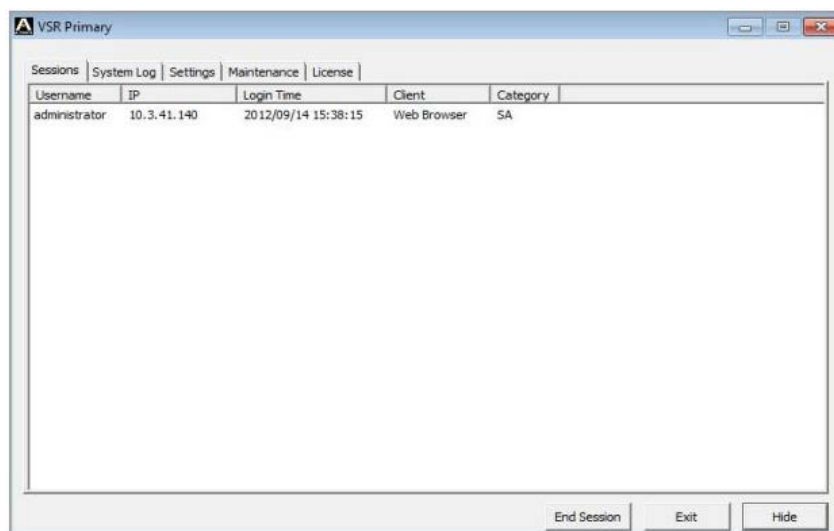


VSR メイン画面

VSR メイン画面が開くと、「Session」(セッション)、「System Log」(システムログ)、「Maintenance」(メンテナンス)、「Settings」(設定)、および「License」(ライセンス)という 5 つのタブを選択することができます。各ページから「Exit」(終了)をクリックすれば、ビデオセッションレコーダーの作業全てを中止し、VSR アプリケーションをシャットダウンしてログアウトすることができます。「Hide」(隠す)をクリックすると、VSR アプリケーションをタスクバーに最小化しながら動作を続け、ログアウトすることができます。設定を保存する必要がある場合はいつでも、VSR はその変更を有効にするために自動的にシャットダウンするので、アプリケーションを再起動する必要があります。

セッション

「Session」(セッション)タブでは、現在どのユーザーがメインビデオセッションレコーダーのブラウザインターフェースにログインしているかを一覧することができ、各セッションに関する情報が表示されます。

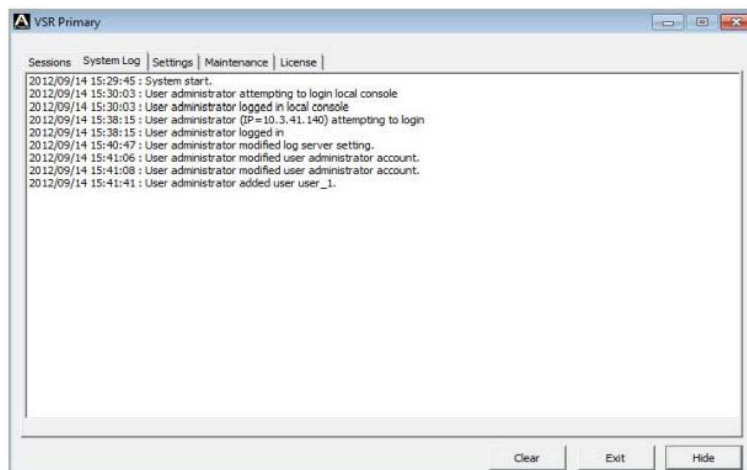


各見出しの意味はほぼそのままの意味です。「IP」という見出しではユーザーがログインしている IP アドレスを、「Login Time」(ログイン時間)では、ユーザーがいつビデオセッションレコーダーにログインしたかを、「Category」(カテゴリ)ではログインしたユーザーのタイプを表示します。

この画面で、アドミニストレーターはユーザーを選択した後、この画面の下部にある「**End Session**」(セッションの終了)をクリックして、そのユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。

システムログ

「System Log」(システムログ)タブでは、ビデオセッションレコーダーで発生したログイベントの詳細を表示します。

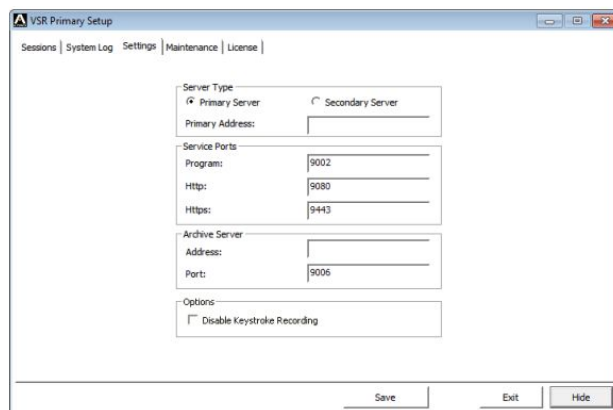


システムログでは、時間、ユーザー、発生した各イベント内容の明細を表示します。ログファイルは最大 512 イベントまで追跡することができます。この数を超えると、新しいイベントが発生した際に最も古いイベントが削除されます。

システムログ全てを消去するには、「**Clear**」(消去)をクリックしてください。

設定

「Setting」(設定)タブでは、ビデオセッションレコーダーをローカルデバイスで、「Primary Server」(プライマリサーバー)または「Secondary Server」(セカンダリサーバー)としていかに機能させるかを決定する際に使用します。本タブにはセクションが2つあります。



サーバーの種類

「Primary Server」(プライマリサーバー)

メインのビデオセッションレコーダーとして動作するコンピューターは「Primary Server」(プライマリサーバー)を選択してください。このコンピューターはホストコンピューターであり、ビデオセッションレコーダーのあらゆることを管理します。ビデオログファイルのストレージを拡張するために「Secondary Server」(セカンダリサーバー)として稼働中のコンピューターを追加することもできます。

「Secondary Server」(セカンダリサーバー)

コンピューターをプライマリサーバーからのビデオログファイルの保存用スペースとして使用する場合は、「Secondary Server」(セカンダリサーバー)を選択してください。そのコンピューターの機能はセカンダリサーバーとしてプライマリサーバーのためにビデオログファイルを保存することのみであり、VSR アプリケーションにログインすると、「Setting」(設定)タブのみが利用可能となります。このオプションを選択して以下の項目を入力してください。

「Primary Address」(プライマリアドレス) - プライマリビデオセッションレコーダーとして動作するコンピューターの IP アドレスを入力してください。

「Service Port」(サービスポート) - プライマリサーバーのプログラムサービスポート番号を入力してください。この機能のデフォルトサービスポート番号は 9002 です。

セカンダリサーバーを動作させるには、プライマリサーバーに追加されなければなりません。詳細は p.101「ビデオセッションレコーダー」を参照してください。

サービスポート

セキュリティの観点から、ファイアーウォールを使用している場合、アドミニストレーターはファイアーウォールが許可するポート番号を設定しなければなりません。デフォルト以外のポートを使用する場合、ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部としてポート番号を入力しなければなりません。無効なポート番号を入力した場合やポート番号を入力していない場合、ビデオセッションレコーダーは見つかりません。各項目の説明は下表の通りです。

項目	説明
Program	これはビデオセッションレコーダーをホスティングするプライマリサーバーに接続するためのセカンダリサーバーを設定するポート番号です(詳細は p.25 参照)。デフォルトは 9002 です。
HTTP	ブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは 9080 です。
HTTPS	セキュアブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは 9443 です。

例：セキュアブラウザログイン (https) を使用して IP アドレスが「192.168.0.100」であるビデオセッションレコーダーにアクセスする場合、下記を入力してください。

https://192.168.0.100:9443

注意：	<ol style="list-style-type: none">1. 各サービスポートで有効な値は 1～65535 です。2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
------------	---

アーカイブサーバー

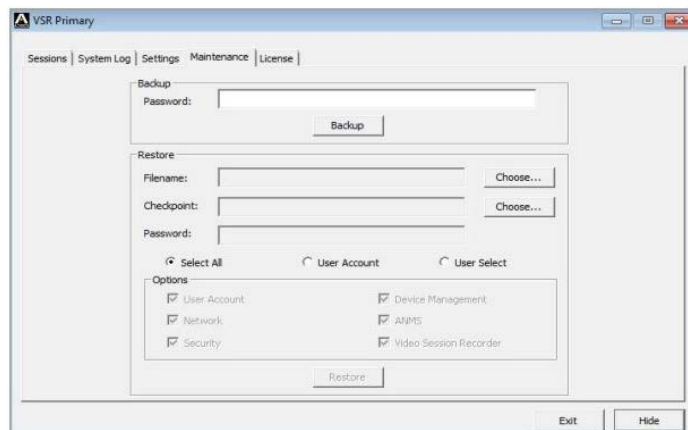
VSR アーカイブサーバーをセットアップしている場合、ソフトウェアをホスティングするコンピュータの IP アドレスとポート番号を入力してください。アーカイブサーバーの設定に関する詳細は、p.38「第 4 章 VSR アーカイブサーバー」を参照してください。

キー入力記録の有効/無効

このボックスにチェックを入れると、ビデオセッションレコーダーは、ビデオセッションが記録されている間にコンピュータで行われたキー入力を記録しません。(詳細は p.62「コントロールパネル」参照)。

メンテナンス

「Maintenance」(メンテナンス)タブはシステム設定のバックアップおよびリストアを行う際に使用し、ファイルまたはシステムへのユーザーアカウント情報は「Checkpoint」(チェックポイント)を作成します。このタブにはセクションが2つあります。



バックアップ

バックアップファイルを作成するには、パスワードを入力してから「Backup」(バックアップ)をクリックしてファイルを保存してください。パスワードを使用しない場合は、「Password」(パスワード)の欄を空白のままにしてください。保存されたデータファイルには現在のシステム設定およびユーザーアカウント情報の全てが含まれています。

リストア

データをリストアするには、チェックポイントを作成したシステムをリストアした「File Name」(ファイル名)または「Checkpoint」(チェックポイント)を選択して、「Choose」(選択)をクリックしてください。ファイルをリストアする場合、「Password」(パスワード)にパスワードを入力してから「Restore」(リストア)をクリックしてください。

データをリストアするのにファイル名を使用する場合、リストアしたいデータのタイプを選択してください。

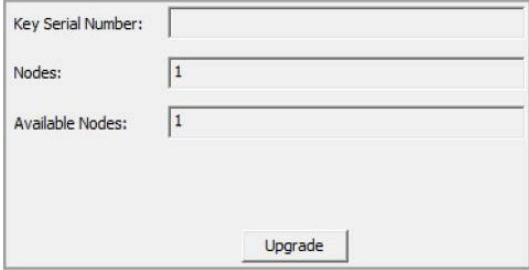
「Select All」(全て選択) - バックアップファイルからのデータ全てをリストアします。

「User Account」(ユーザーアカウント) - バックアップファイルからユーザーアカウントに関するデータのみリストアします。

「User Select」(ユーザー選択) - リストアしたいデータ(ユーザーアカウント、ネットワーク、セキュリティ、デバイス管理、ANMS、およびビデオセッションレコーダー)のみリストアします。

ライセンス

「License」(ライセンス)タブはソフトウェアをアップグレードし、サーバーライセンスを追加する際に使用します。



Key Serial Number:	<input type="text"/>
Nodes:	<input type="text" value="1"/>
Available Nodes:	<input type="text" value="1"/>
<input type="button" value="Upgrade"/>	

ライセンスのアップグレード

ライセンスでは、購入したノードの全数と使用していない**利用可能なノード**を管理し、ビデオセッションレコーダーでの使用を許可します。ライセンス情報は同梱の USB ライセンスキーに含まれています。

VSR ソフトウェアのインストールが完了すると、プライマリサーバー1 台に対してデフォルトのライセンスが自動的に付与されます。ビデオセッションレコーダーのノードを更に追加する場合は、ライセンスをアップグレードしなければなりません。

ライセンスをアップグレードするには下記の作業を行ってください。

1. 同梱の USB キーを使用するか、追加したいプライマリ/セカンダリサーバーの台数分の新しいライセンスキーを購入してください。
2. ビデオセッションレコーダーの USB ポートにライセンスキーを接続してください。
3. VSR アプリケーションにログインし、ライセンスタブから「**Upgrade**」(アップグレード)をクリックしてください。

これで(購入されたライセンス数分の)ビデオセッションレコーダーをインストールし、ネットワークを通じて通信および動作することができるようになります。

-
- 注意:**
1. アップグレードが完了したら、キーを USB ポートに接続しておく必要はありません。キーを取り外し、今後のアップグレードの際には使用できるように安全な場所に保管してください。
 2. USB ライセンスキーを紛失してしまった場合、販売店にて別途お求めください。紛失したキーのシリアルナンバーをご提供いただければ、新しいキーには紛失したキーに保存された情報を含むことができます。
-

第4章

VSR アーカイブサーバー

概要

VSR アーカイブサーバーは VSR サーバーで作成したデータの保存、再生、インポートおよびエクスポートを行うことができます。ビデオログファイルのコピーはソフトウェアによってプライマリ VSR サーバーからメインシステムとは隔離された系統的なアーカイブに転送されます。この機能により、メインシステムから古いファイルを削除しながらも、将来に備えて全てのビデオを安全なアーカイブに保管することができます。アーカイブサーバーはバックグラウンドで動作し、15 秒ごとにアーカイブを自動的にアップデートします。このソフトウェアを購入される場合は、p.15「ライセンス」を参照してください。

VSR アーカイブサーバーのインストール

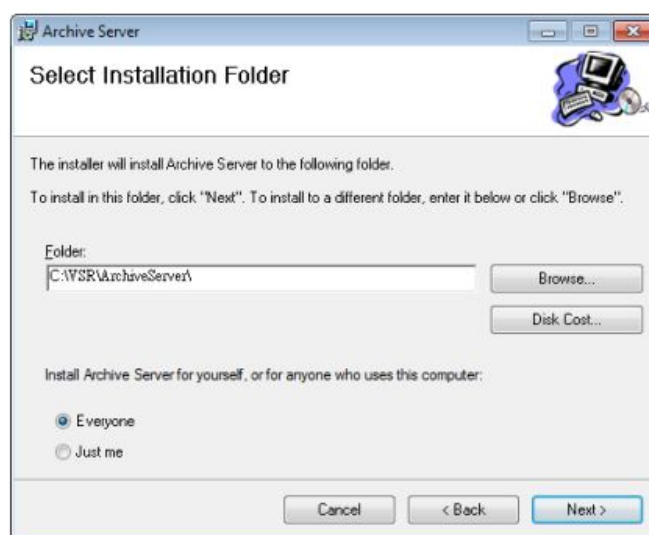
Windows システムにアーカイブサーバーをインストールするには、そのコンピューターに USB ライセンスキーを挿入してから下記を行ってください。

1. 同梱品であるソフトウェア CD をコンピューターの CD ドライブに入れるか、インストールファイルでフォルダーを開いてください。
2. 「setup.exe」があるフォルダーを開き、この「setup.exe」をダブルクリックしてください。下図のような画面が表示されます。



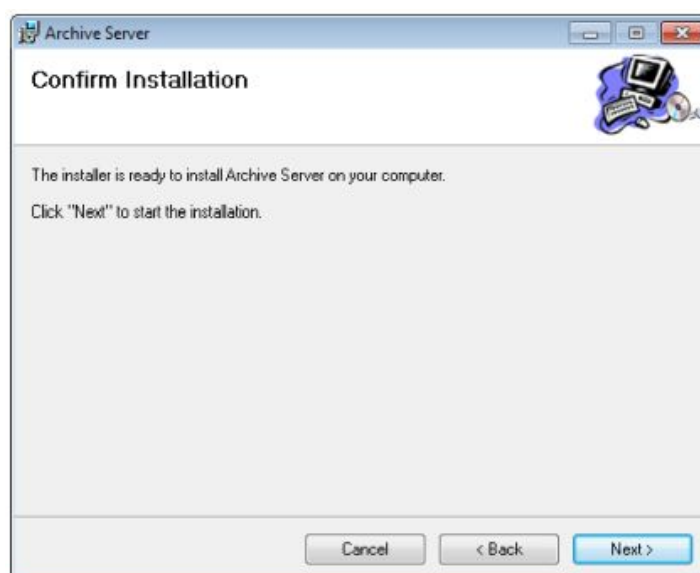
「Next」(次へ)をクリックして続けてください。

3. 「Select Installation Folder」(インストールフォルダーの選択)画面にて、インストールするフォルダーを指定するか、または「Browse」(参照)をクリックしてインストールしたい場所を指定してください。次に、インストールしたソフトを自分しか使用しない場合は「Just me」を選択し、このコンピューターを使用する人なら誰でも使えるようにする場合は「Everyone」を選択してください。利用可能なドライブとディスクの空き容量を見るには「Disk Cost」をクリックしてください。

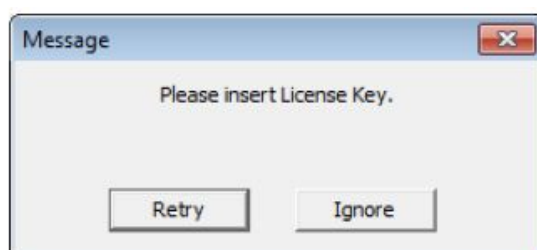


「Next」(次へ)をクリックして続けてください。

4. 「Confirm Installation」(インストールの確認)画面が表示されたら、「Next」(次へ)をクリックして続けてください。



5. ライセンスキーを挿入するように促すメッセージが表示されたら、コンピューターにもう一度 USB ライセンスキーを挿入するか、別の USB ポートを試してから、「**Retry**」(再試行)をクリックしてください。



「**Ignore**」(無視)をクリックすると、ソフトウェアはインストールされますが、USB ライセンスキーが使用できるようになるまで、このソフトウェアを使用することはできません。

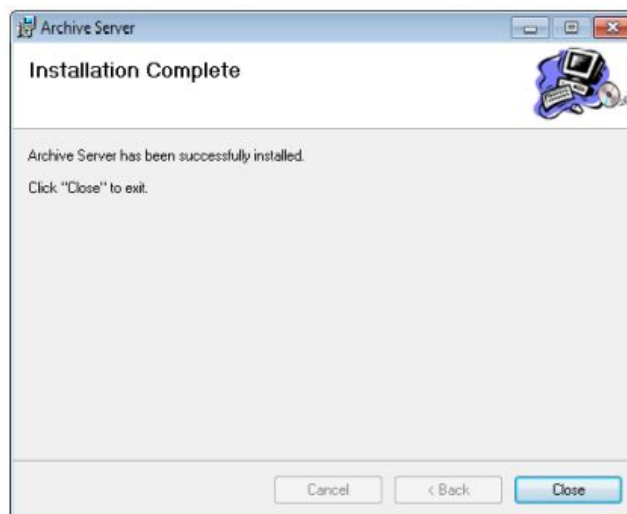
6. 「**Config**」(設定)ダイアログが表示されたら、オプションを選択して、「**OK**」をクリックしてください。



Register VSR Service: このオプションは、バックグラウンドでソフトウェアを動作させるようにするために、Windows OS で VSR サービスをインストールして登録します。

Start VSR Service: このオプションはインストールが完了後、自動的に VSR サービスを起動させます。両方のオプションを選択されることを推奨いたします。

7. インストールが完了すると、下図のメッセージが表示されます。

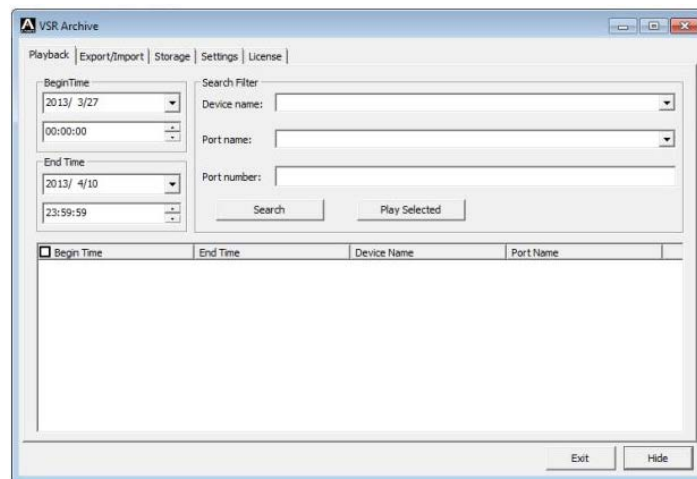


ライセンス

VSRソフトウェアのインストールが完了すると、サーバー1台につき、デフォルトのライセンスが1つ自動的に付与されます。ビデオセッションレコーダーをさらに追加する場合は、ライセンスをアップグレードしなければなりません。ライセンスをアップグレードする方法の詳細については、p.28「ライセンス」を参照してください。ライセンスオプションの詳細については、p.16「ライセンスのオプション」を参照してください。

アーカイブサーバーGUI

アーカイブサーバーのインターフェースには、「Playback」(再生)、「Export/Import」(エクスポート/インポート)、「Settings」(設定)、「Storage」(ストレージ)および「License」(ライセンス)という 5 つのタブがあります。ソフトウェアがインストールされたら、デスクトップにあるアーカイブ GUI アイコンをダブルクリックしてください。そうすると、「Playback」(再生)画面が表示されます。



アーカイブサーバーをシャットダウンするには、「Exit」(終了)ボタンを、タスクバーにウィンドウを最小化するには「Hide」(隠す)をクリックしてください。

セットアップ

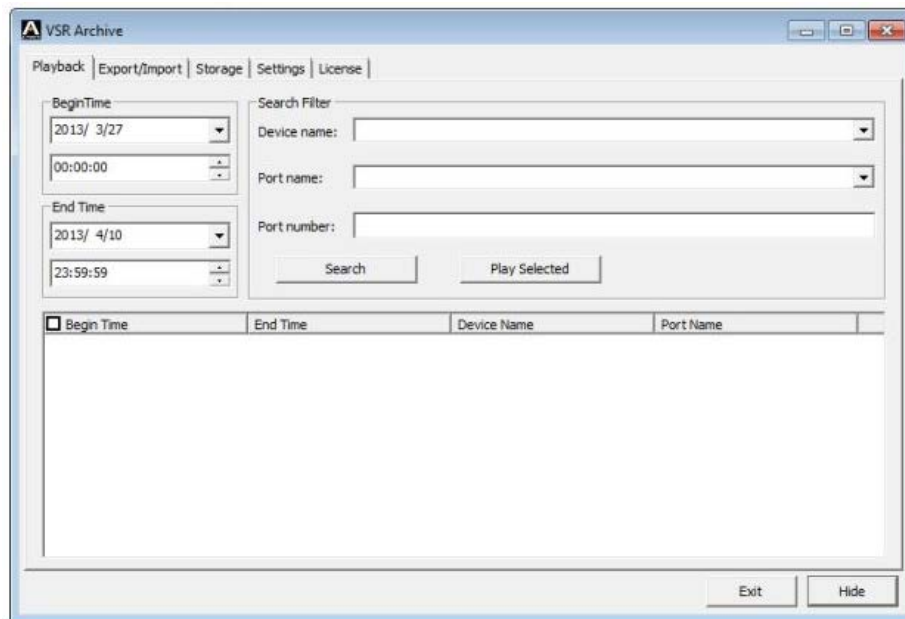
アーカイブサーバーをセットアップするには、プライマリ VSR サーバーでアーカイブサーバーの IP アドレスを設定し、次にアーカイブサーバーの「Storage」(ストレージ)タブから保存場所を追加するという 2 つの手順があります。

まず、プライマリ VSR サーバーでアーカイブサーバー(p.35「アーカイブサーバー」参照)の IP アドレスを設定してください。次に「Storage」(ストレージ)タブ(p.48「ストレージ」参照)から保存場所を追加してください。保存場所とは、アーカイブされたビデオログファイルが保存される場所のことです。

IP アドレスが設定され、保存場所が追加されると、アーカイブサーバーはインストール後に作成されたビデオログファイル全てを自動的にアーカイブし始めます。アーカイブは 15 分毎にアップデートされます。新しいビデオログファイルを確認するには、「Playback」(再生)タブを開いて「Search」(検索)をクリックしてください。新しいビデオログファイルの全てが検索画面に表示されます。

再生

「Playback」(再生)タブはアーカイブされたまたは手動でインポートされたビデオログファイルを検索し、再生するのに使用します。アーカイブされたビデオログファイル全てのリストを見るには、「Search」(検索)ボタンをクリックしてください。



「Playback」(再生)タブには、アーカイブされたビデオログファイルの検索および再生に使用するためのセクションが3つあります。

Begin Time/End Time(開始時刻/終了時刻)

このセクションは、開始時刻および終了時刻によって検索結果をフィルタリングすることができます。開始時刻および終了時刻とは、実際のビデオログの記録がKVMスイッチで行われた時間を表します。

Search Filter(フィルターの検索)

「Search Filter」(フィルターの検索)は、記録されているKVMスイッチのポート名、デバイス名、またはポート番号によってアーカイブされたビデオログファイルを検索するのに使用します。検索データを入力したら、「Search」(検索)をクリックしてください。検索結果*は画面の下側に表示され、表示項目を使用して検索結果の順番を並び替えることができます。アーカイブされたビデオログ全てを参照したい場合は、検索項目の欄を空欄のままにして「Search」(検索)をクリックしてください。

Play Selected (選択したビデオログの再生)

ビデオログを再生するには、「Search*」(検索)をクリックして、アーカイブされたビデオログの一覧表を表示させてください。

The screenshot shows a software interface for searching and playing video logs. It includes search filters for Begin Time, End Time, Device name, Port name, and Port number. Below the filters is a table with columns for Begin Time, End Time, Device Name, and Port Name. The table contains 12 rows of data, all from the device 'Windows_Sec_01a' and port '[02]2008_SAP_Dev'.

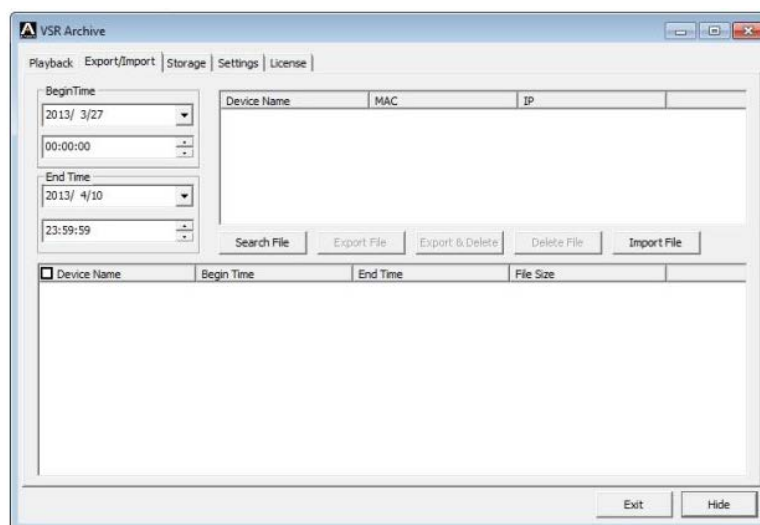
Begin Time	End Time	Device Name	Port Name
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 10:10:25	2013-04-26 10:10:36	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 10:14:33	2013-04-26 10:15:16	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 10:39:09	2013-04-26 10:40:34	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 10:40:45	2013-04-26 10:41:55	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 10:48:21	2013-04-26 10:49:45	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 11:39:39	2013-04-26 11:42:21	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 11:46:41	2013-04-26 11:47:14	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 11:47:23	2013-04-26 11:49:50	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 11:51:50	2013-04-26 11:54:37	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 11:54:48	2013-04-26 11:55:41	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 11:56:49	2013-04-26 11:58:08	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev
<input type="checkbox"/> 2013-04-26 14:34:22	2013-04-26 14:34:41	Windows_Sec_01a	[02]2008_SAP_Dev

再生したいビデオのチェックボックスにチェックを入れてから、「Play Selected」(選択したビデオを再生する)をクリックしてください。ビデオログビューアアプリケーションを使用した新しいウィンドウでビデオが再生されます。ビデオログビューアに関する詳細は、p.60「ビデオログビューア」を参照してください。

-
- 注意:**
1. 「Search」(検索)をクリックした後にビデオログファイルが表示されない場合、またはアーカイブがアップデートされない場合、15 分ほど待機してください。または、保管場所に「Storage」(ストレージ)タブを追加する必要があります(p.48「ストレージ」参照)。
 2. アーカイブサーバーがインストールされた後に作成されたビデオログだけがプライマリ VSR サーバーから自動的にアーカイブされます。インストール前に作成されたビデオログは「Export/Import」(エクスポート/インポート)タブから手動でインポートしなければなりません (p.45「エクスポート/インポート」参照)。
-

エクスポート/インポート

「Export/Import」(エクスポート/インポート)タブはシングルデータベース(.vse)ファイルフォーマットでビデオログファイルのエクスポートやインポートを行うのに使用します。データベース(.vse)ファイルは多数に及ぶ個々のビデオログを 1 つの圧縮ファイルに統合して、ディスクスペースを減らすことができ、またストレージにエクスポートしたり、使用するのにインポートしたりできます。「Export/Import」(エクスポート/インポート)タブは、また、VSR プライマリサーバーで作成された個々のビデオログファイル(.dat)をインポートすることもできます。



「Device Name」(デバイスネーム)を選択して、「Search File」(ファイルの検索)をクリックすることで、エクスポートするファイルを検索することができます。または、「Import File」(インポートファイル)をクリックすることで、「.vse」または「.dat」ファイルをアーカイブサーバーに手動でインポートすることができます。インポートしたファイルに関する詳細は、下記の「ファイルのインポート」を参照してください。

Begin Time/End Time(開始時刻/終了時刻)

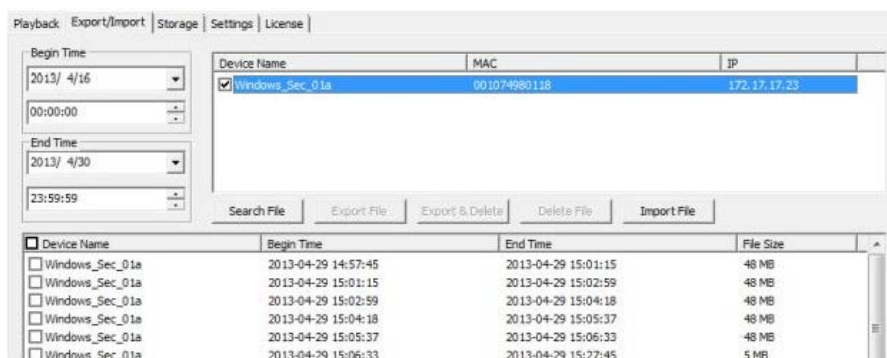
このセクションは、開始時刻および終了時刻によって検索結果をフィルタリングすることができます。開始時刻および終了時刻とは、実際のビデオログの記録がKVMスイッチで行われた時間を表します。

Device Name(デバイスネーム)

このセクションには、プライマリ VSR サーバーに追加された KVM スイッチの名前が一覧表示されます。KVM スイッチからアーカイブされた個々のビデオログファイルのリストを表示するには、デバイスを選択して「Search」(検索)をクリックします。その後で「.vse」データベースファイルにエクスポートするビデオログを選択することができます。

Search File(ファイルの検索)

「Search File」(ファイルの検索)ボタンは、選択した「Device Name」(デバイス名)のビデオログファイルを検索する際に使用します。検索結果は下図のように、ウィンドウの下側のセクションに表示されます。その後で、「.vse」データベースにエクスポートするビデオログファイルを選択することができます。



Export File(ファイルのエクスポート)

ログをエクスポートする場合、これらは 1 つの圧縮された「.vse」データベースファイルに保存されています。下側のウィンドウに表示されたビデオログファイルの中からエクスポートしたいファイルを選択して、「Export File」(ファイルのエクスポート)をクリックしてから「.vse」ファイルとして保存するためにファイル名をつけてください。

Export & Delete(エクスポート&削除)

「Export & Delete」(エクスポート&削除)ボタンは選択したファイルを「.vse」データベースファイルにエクスポートして、エクスポートしている個々のビデオログファイルをアーカイブサーバーから削除します。シングルデータベースにアーカイブしている個々のファイルを削除するには、この方法が早いです。

Delete File(ファイルの削除)

「Delete File」(ファイルの削除)ボタンは選択したビデオログファイルをアーカイブサーバーから削除します。

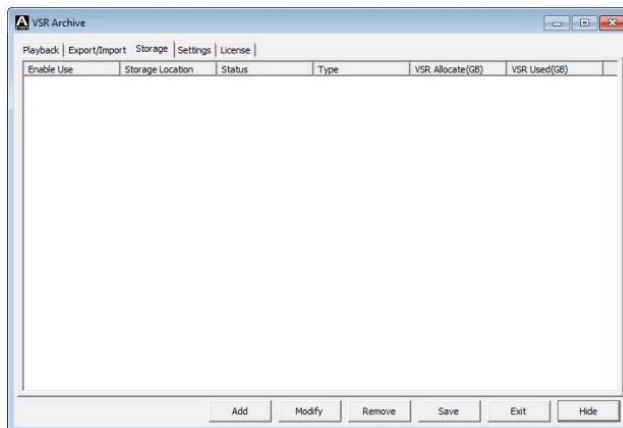
Import File(ファイルのインポート)

「Import File」(ファイルのインポート)ボタンは、参照、アーカイブまたはエクスポート用の新しいデータベースの作成を行うために、データベースファイル(.vse)と個々のビデオログファイルをインポートするのに使用します。

「**Import File**」(ファイルのインポート)をクリックして、インポートする(.dat または.vse)ファイルを参照・選択してから、「Open」(開く)をクリックしてください。「.vse」データベースファイルを開く場合、リストからファイルを選択して「**Import**」(インポート)をクリックしてください。インポートするファイルは、アーカイブサーバーにそれをコピーするので、ファイルをインポートする前に、「Storage」(ストレージ)タブ(下記「ストレージ」参照)から保管場所を追加する必要があります。保管場所は作成された日付によってアーカイブされたファイルが保存された場所のことです。

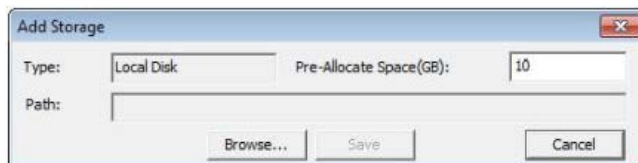
ストレージ

「Storage」(ストレージ)タブは保管場所を追加するのに使用します。これはアーカイブされたビデオログファイルが保存された場所のことです。ビデオログ用に複数の保管場所を追加することができます。最初の保管場所がいっぱいになると、2つ目の保管場所が使用され、以後3つ目・・・となります。ビデオログは作成された日付に基づいてフォルダーにアーカイブされます。アーカイブサーバーは保管場所が**追加**され、**有効**になるまでビデオファイルをアーカイブすることはできません。



保管場所を追加して有効にするには、下記の作業を行ってください。

1. 「**Add**」(追加)をクリックしてください。下図のようなウィンドウが表示されます。

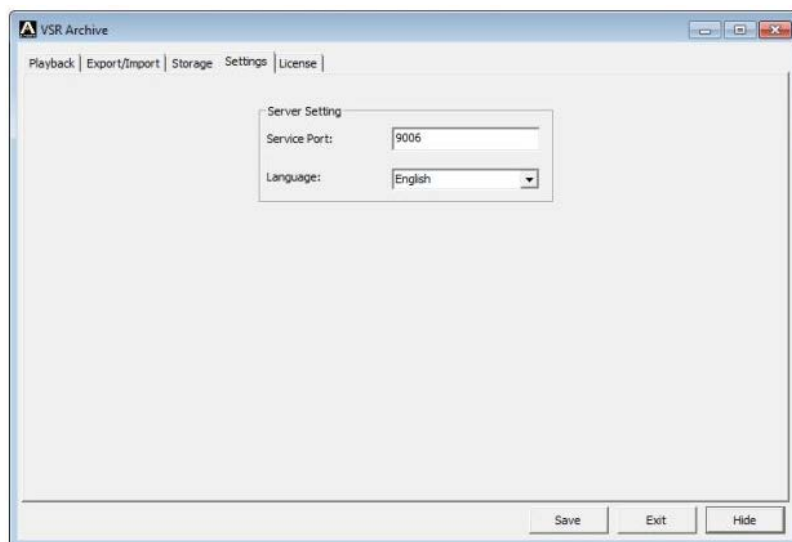


2. パスを入力するか、または「**Browse**」(参照)をクリックして保管場所を選択してください。
3. 「Pre-Allocate Space(GB)」(仮割り当て場所(GB))欄に使用するディスク容量の最大値を入力してから「**Save**」(保存)をクリックしてください。保管場所が下部のウィンドウに表示されます。
4. 次に「**Enable Use**」(使用可能)ボックスを確認してから「**Save**」(保存)をクリックしてください。

保管場所を変更するには、保管場所を選択してから「**Modify**」(変更)をクリックし、削除するには「**Remove**」(削除)をクリックしてください。変更内容を保存するには、「**Save**」(保存)をクリックしてください。

設定

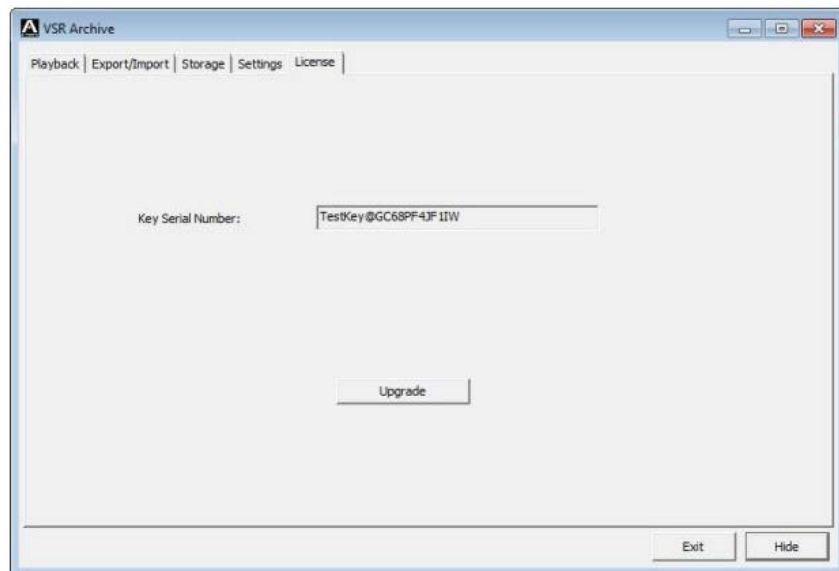
「Settings」(設定)タブはサーバーの設定を行うのに使用します。



このタブで、サービスポート番号と言語を設定することができます。デフォルトのサービスポート番号は **9006** です。

ライセンス

ライセンスキーをアップグレードするには、「License」(ライセンス)タブを使用してください。コンピューターに USB ライセンスキーを差し込んでから、「**Upgrade**」(アップグレード)をクリックしてください。



アップグレードに失敗した場合、USB ライセンスキーをもう一度接続し直すか、またはコンピューターの他の USB ポートを試してください。

第5章

ユーザーインターフェース

概要

ビデオセッションレコーダーのユーザーフェースは Web ブラウザを通じてアクセスでき、主な特長と機能が含まれています。本章ではビデオセッションレコーダーへのログイン方法とブラウザ構成要素について説明します。

ブラウザログイン

ビデオセッションレコーダーは、任意のプラットフォームで動作しているインターネットブラウザを通じてアクセスすることができます。ビデオセッションレコーダーのブラウザインターフェースにアクセスするには、VSRアプリケーションを開始していなければなりません(詳細はp.21「VSRアプリケーション」参照)。

ビデオセッションレコーダーにアクセスするには、以下の作業を行ってください。

1. ブラウザを開き、ブラウザのロケーションバーにアクセスしたいビデオセッションレコーダーの IP アドレスとサービスポート番号を入力してください。

例: <https://192.168.0.100:9443>

2. セキュリティの警告ダイアログボックスが表示されたら、これは信頼できる証明書なので、受け入れてください。また、証明書が表示されたら、同様にそれも受け入れてください(p.112「信頼された証明書」参照)。

証明書を受け入れると、ログイン画面が表示されます。



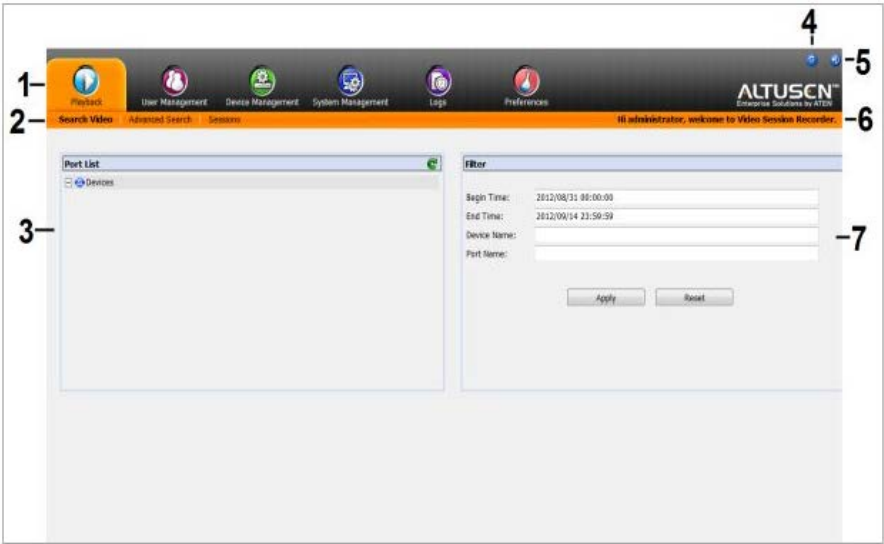
The image shows a login form titled "Video Session Recorder Login". It has a black header bar with the title in white. Below the header, there are two input fields: "Username:" and "Password:". At the bottom, there are two buttons: "Login" and "Reset".

3. ユーザーネームとパスワードを入力してから、「**Login**」(ログイン)をクリックして、Web メイン画面を表示してください。

注意: 初回ログイン時には、デフォルトのユーザー名「administrator」とパスワード「password」を入力してください。

Web ブラウザメイン画面

ユーザーがログインし、認証されると、「Playback」画面が表示された状態で、Web ブラウザメイン画面が表示されます。



注意: 上図はスーパーアドミニストレーターの画面を表しています。ユーザーの種類と操作権限によっては、全ての項目が表示されるわけではありません。

画面構成要素

Web 画面の構成要素は下表の通りです。



No.	アイテム	説明
1	タブバー	ビデオセッションレコーダーのメイン操作カテゴリがメニュー別にタブ表示されます。表示タブはユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
2	メニューバー	タブで選択された操作に関連するサブカテゴリーが表示されます。この部分に表示される項目はユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。

(表は次ページに続きます。)





No.	アイテム	説明
3	サイドバー	様々なタブや選択したメニューバーに関する項目に対応したポートリストがこの部分にツリー形式で表示されます。サイドバーの項目をクリックすると、その詳細画面が表示されます。 注意: タブバーの中にはその機能によってサイドバーがないものがあります。
4	About(バージョン情報)	製品に現在インストールされているファームウェアのバージョンに関する詳細が表示されます。
5	ログアウト	このボタンをクリックすると、現在のセッションからログアウトします。
6	ウェルカムメッセージ	この機能が有効になっている場合、ウェルカムメッセージがこの部分に表示されます。
7	詳細表示パネル	メインの作業領域です。選択されたメニューやサイドバーのノードに応じたメニューが表示されます。

タブバー



ページ上部のタブバーに表示されるアイコンの数およびタイプは、ユーザータイプ(スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)や、ユーザーアカウント作成時にユーザーに付与された操作権限によって決定します。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	Playback (再生) : この画面は利用可能なビデオログの検索や再生、現在のブラウザセッションの監視に使用します。「Playback」(再生)については p.56 で説明します。
	User Management (ユーザー管理) : ユーザーやグループの作成・管理を行います。また、デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。本メニューは、スーパーアドミニストレーターと、ユーザー管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。「User Management」(ユーザー管理)については、p.63 で説明します。

(表は次ページに続きます。)

アイコン	機能
	Device Management (デバイス管理) : KVM スイッチの追加およびビデオログを記録するポートの設定を行います。なお、これはスーパーアドミニストレーター、およびデバイス管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみがアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。「Device Management」(デバイス管理)については p.80 で説明します。
	System Management (システム管理) : ビデオセッションレコーダーのシステム設定およびネットワークからセカンダリサーバーの追加を行います。「System Management」(システム管理)については p.89 で説明します。
	Log (ログ) : ログファイルの内容を表示します。このメニューの詳細については p.85 をご参照ください。
	Preference (個人設定) : 現在ログインしているユーザーのユーザー設定をカスタマイズすることができます。「Preference」(個人設定)の詳細については p.108 をご参照ください。

これ以外に、画面右上には、以下のアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると、現在、製品にインストールされているファームウェアのバージョン情報を表示します。
	このアイコンをクリックすると、現在のセッションからログアウトします。

第6章

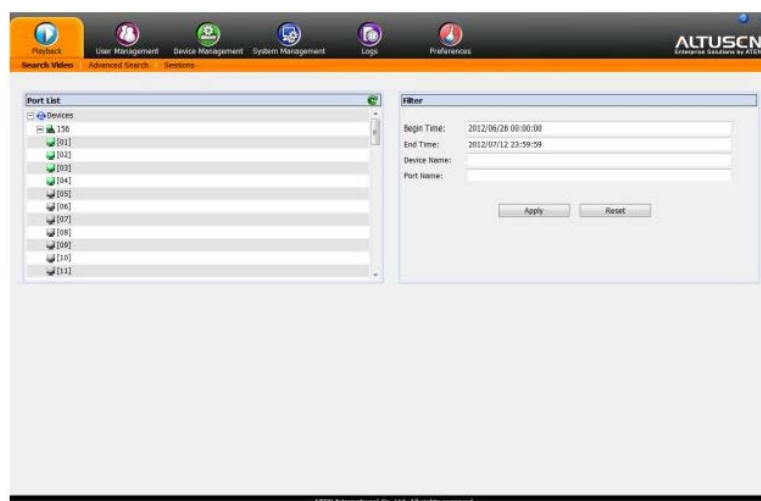
再生

概要

「Playback」(再生)タブはビデオログの検索や再生、およびユーザーセッションの管理に使用されます。「Playback」(再生)タブには下記で説明するように、「Search Video」(ビデオ検索)、「Advanced Search」(詳細検索)、および「Session」(セッション)という3つのメニュー画面があります。「Playback」(再生)タブを使用する前に、p.80「KVM ポートの記録」を参照して、KVM デバイスをまず追加しなければなりません。

ビデオ検索

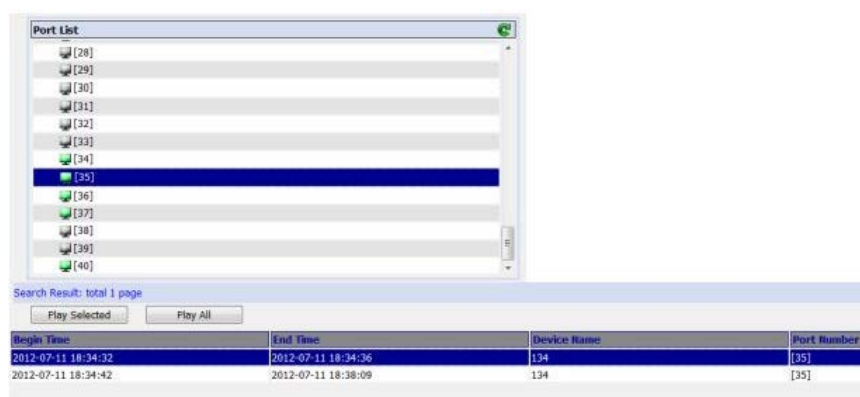
ビデオセッションレコーダーにログインすると、「Playback」(再生)タブの「Search Video」(ビデオの検索)画面が表示されます。「Search Video」(ビデオの検索)画面は、デバイス毎、ポート毎、または時間毎のビデオログの検索に使用されます。



「Search Video」(ビデオの検索)画面は、いくつかのメイン画面にまとめられています。「Port List」(ポートリスト)セクションではユーザーがアクセスを許可された KVM デバイスおよびそのポート全てを表示します。「Filter」(フィルター)セクションは選択した条件にてビデオを検索するようにポートリストをフィルタリングする際に使用します。

ポートリスト

「Port List」(ポートリスト)はポート毎にビデオログを検索する際に使用され、接続している KVM デバイスの下に表示されます。ポートとビデオログを選択すると、その下に項目が表示され、下図のようにそのポートからキャプチャされたビデオ全てが一覧表示されます。

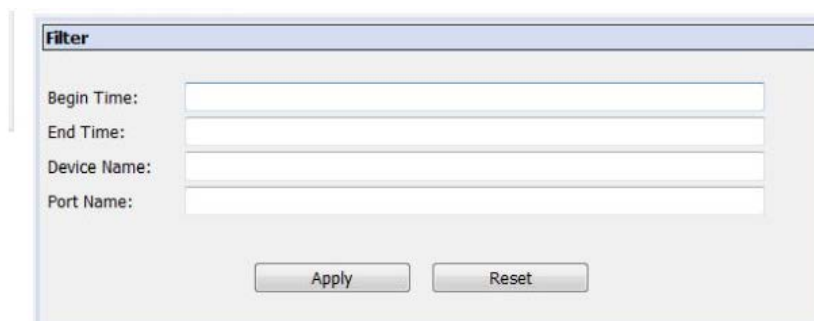


再生

ビデオログを再生するには、「Search Results」(検索結果)から再生対象となるログを選択し、「Play Selected」(選択したものを再生)または「Play All」(全て再生)をクリックしてください。そうすると、選択したログは、ビデオログビューアアプリケーションを使用して新しいウィンドウで再生されます。ビデオログビューアの詳細は p.60「ビデオログビューア」を参照してください。

フィルター

「Filter」(フィルター)セクションは「開始時刻」、「終了時刻」、「ポートネーム」または「デバイスネーム」によってポートリストを要約する際に使用します。「開始時刻」と「終了時刻」とは記録が行われた時間を表しています。



ポートリストをフィルタリングするには、値を入力してから「**Apply**」(適用)をクリックしてください。フィルター全てを削除するには、「**Reset**」(リセット)をクリックしてください。

詳細検索

「Advanced Search」(詳細検索)画面は、広範囲な規模でビデオログを検索する際に使用し、「開始時刻」、「終了時刻」、「ポートネーム」、「デバイスネーム」、または「ポート番号」によってビデオログを検索することができます。「開始時刻」と「終了時刻」とは、記録が行われた開始時刻と終了時刻を表します。検索データを入力後、「**Search**」(検索)をクリックしてください。検索結果は下図のように画面の下側に表示されます。



The screenshot shows the 'Advanced Search' tab in a web application. It features a search form with the following fields: 'Begin Time', 'End Time', 'Device Name', 'Port Name', and 'Port Number'. A 'Search' button is located to the right of the form. Below the form, it indicates 'Search Result: total 1 page' and provides buttons for 'Play Selected' and 'Play All'. A table displays the search results with the following data:

Begin Time	End Time	Device Name	Port Number
2012-07-12 18:02:26	2012-07-12 18:03:00	157	[01]test1
2012-07-12 18:02:27	2012-07-12 18:03:03	157	[02]test2

再生

ビデオログを再生するには、「Search Results」(検索結果)からビデオログを選択して、「Play Selected」(選択したものを再生)または「Play All」(全て再生)をクリックしてください。ビデオはビデオログビューアアプリケーションを使用して新しいウィンドウで再生されます。ビデオログビューアの詳細は p.60「ビデオログビューア」を参照してください。

セッション

「Session」(セッション)画面では、アドミニストレーターとユーザー管理権限を持つユーザーが現在ビデオセッションレコーダーにログインしているユーザーの状態を一覧することができ、各セッションに関する情報を得ることができます。



Username	IP	Login Time	Client	Category	Devices	Ports
administrator	10.3.41.140	2012/07/12 15:04:20	Web Browser	SA		
User_Brett	10.3.41.140	2012/07/12 16:00:43	Web Browser	Admin		
User_Sally	10.3.41.140	2012/07/12 16:00:50	Web Browser	Normal User		

- 注意:**
1. 本画面は通常のユーザーはご利用いただけません。
 2. ユーザー管理権限を持つユーザーは通常のユーザーのセッションだけを参照することができます。
 3. 「Category」(種類)の見出しには、ログイン中のユーザーの種類を表示します。スーパーアドミニストレーターは「SA」、アドミニストレーターは「Admin」、通常のユーザーは「User」と表示されます。

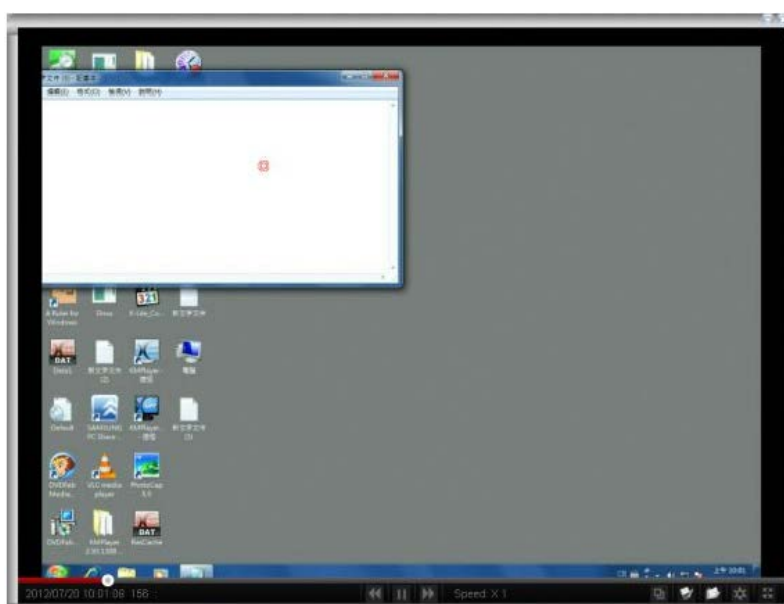
本画面の上部にある見出しの意味はほぼそのままの意味で、「IP」はログインしているユーザーのIPアドレスを、「Login Time」(ログイン時刻)はユーザーによるビデオセッションレコーダーログイン時刻を、「Device」(デバイス)と「Port」(ポート)はユーザーが現在アクセスしているデバイスとポートを表します。

- ◆ 本画面ではアドミニストレーターがユーザーを選択して、本画面の下側にある「Kill Session」(セッションの終了)をクリックすることによって、強制的にユーザーをログアウトさせることができます。
- ◆ 見出しをクリックすることによって表示されている情報の順番を変更することができます。

ビデオログビューア



ビデオログビューアはビデオログファイルの再生を実行した際にポップアップ表示されるビデオプレーヤーを内蔵しています。ビデオログビューアはビデオセッションレコーダーの Web セッションから、または保存したディレクトリから直接ビデオログを見る際に使用します。ビデオログビューアの再生ツールを下記に説明します。

ビデオログを再生すると、ビデオログビューアがポップアップ表示され、下図のような画面が表示されます。



ツールバー

ツールバーはビデオの下側に表示され、ビデオに関する情報を参照したり、再生機能进行操作したりすることができます。ツールバーはマウスの動きが 3 秒間止まると、非表示になります。ツールバーを再表示するには、マウスを動かしてください。ツールバーの機能は下表の通りです。

アイコン	機能
	再生: このボタンは一時停止したビデオログを再度再生する際に使用します。
	一時停止: このボタンは再生中のビデオログを一時停止する際に使用します。

(表は次ページに続きます。)

アイコン	機能
	早く: このボタンはビデオログの再生スピードを上げる(通常の再生速度の 2 倍、4 倍、8 倍)のに使用します。
	遅く: このボタンはビデオログの再生スピードを遅くする(通常の再生速度の 1/2、1/4、1/8)のに使用します。
	<p>プログレスバー:ビデオログの再生がどれくらい進んでいるかを表します。「Play All」(全て再生)機能を使用して、複数のビデオログを参照している場合、プログレスバーの赤いラインはビデオログの終了を表し、次のビデオログの再生を開始します。</p> <p>プログレスバーの任意の場所にマウスを置くと、ビデオログがキャプチャされた日時を表すポップアップが表示されるので、すぐに参照したい場面に移動することができます。</p> <p>プログレスボタンをクリックアンドドラッグして前後に動かすと、ビデオを任意の時点に進めることができ、またはプログレスバーの任意の場所をクリックすると、特定の時点まで進めることができます。</p>
	<p>ウィンドウのリサイズ:右下隅をクリックし、バーをドラッグすると、ウィンドウをリサイズすることができます。リサイズ後、ビデオがそのウィンドウのサイズに合わない場合、「スケールモード」機能(下記参照)を使用して、拡大/縮小することができます。</p> <p>注意:リサイズウィンドウエリアの外側にあるウィンドウフレームのグレー部分を左クリックしたままにすると、ウィンドウ全体を画面の任意の場所に移動することができます。</p>
	<p>スケールモード:このアイコンはビデオログビューアウィンドウのビデオ表示サイズを変更することができます。このアイコンをクリックすると、下記のようなオプションが 3 つ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Keep Video Size(ビデオサイズを維持する):ビデオ表示サイズを元のデフォルトのサイズのままにして、拡大/縮小します。 ◆ Keep Video Ratio(ビデオ縦横比を維持する):リサイズしたウィンドウサイズに合うようにビデオ表示比率を保ったままサイズを拡大/縮小します。 ◆ Scale Video to Window(ビデオをウィンドウサイズにリサイズする):ビデオ表示をウィンドウ全体のサイズになるように拡大/縮小します。

(表は次ページに続きます。)

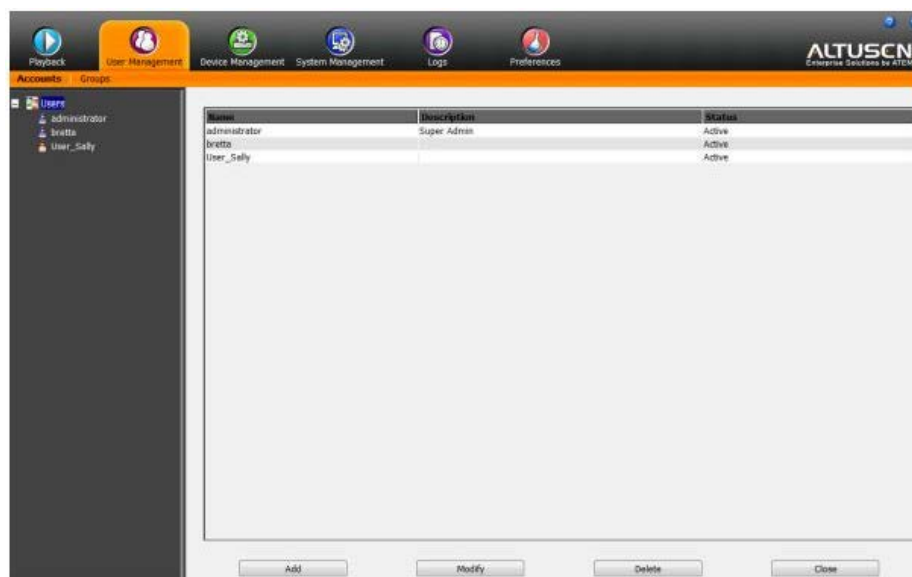
アイコン	機能
	<p>ビデオを保存する:このアイコンは現在のビデオログをディレクトリに保存し、パスワードで暗号化することができます。</p> <p>ビデオログを保存するには、「Save Video」(ビデオを保存する)をクリックし、ディレクトリを選択して、ファイルに名前を付けて、「Save」(保存)をクリックしてください。「Save」をクリックした後、「Set Password」(パスワード設定)ウィンドウが開くので、ビデオログファイルにパスワードを入力するか、パスワードを入力せずに空白のままにしてから「OK」をクリックしてください。</p> <p>注意:「Set Password」(パスワード設定)プロンプトで「Cancel」(中止)をクリックすると、保存作業を中止し、ファイルは保存されません。</p>
	<p>ビデオを開く:このアイコンは以前保存したビデオファイルを開く際に使用します。このアイコンをクリックして、ビデオログファイルを選択してからパスワードを入力してください。</p>
	<p>コントロールパネル:ビデオ再生中に、ビデオ画像に加え、コントロールパネルでは操作(マウスクリック、キー入力)、ユーザーネーム、コンピューターにログインしているユーザーの IP アドレスを表示し、実行した順番に並び替えることができます。複数のユーザーが KVM ポートにログインしている場合、コントロールパネルはそのユーザーを表示し、それぞれの操作を行います。</p> <p>アイコンをクリックしてコントロールパネルウィンドウを表示し、左上隅にあるピンアイコンを使用して、開いたウィンドウを保持/解除してください。</p> <p>「User List」(ユーザーリスト)ではビデオログが記録された時間に KVM ポートにログインしたユーザーを表示します。</p>
	<p>フルスクリーン:このアイコンはビデオログビューアウィンドウを画面全体に合うように拡大します。フルスクリーンモードを解除するには、もう一度このアイコンをクリックしてください。</p>

第7章

ユーザー管理

概要

「User Management」(ユーザー管理画面)のタブを選択すると、ユーザー画面が表示されます。



この画面は、左側にサイドバー、右側に大きなメインパネルという 2 つの画面から構成されています。

- ◆ ユーザーとグループが画面の左側のパネルに表示されます。右側の大きなパネルにそれぞれの詳細情報が一覧表示されます。
- ◆ また「Accounts」(アカウント)と「Groups」(グループ)という別のメニューバーエントリーがあります。選択したメニューアイテムによって、サイドバーにユーザーまたはグループが一覧表示されます。
- ◆ 表示情報の順序はメインパネルの見出しをクリックすることで、変更することができます。
- ◆ メインパネル下側のボタンは下記のセクションで説明するように、ユーザーとグループの管理に使用します。

ユーザー

ビデオセッションレコーダーでは下表のように 3 種類のユーザータイプに対応しています。

ユーザータイプ	役割
スーパー アドミニストレーター	ポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポート/デバイスへのアクセス、権限のあるポート/デバイスへの管理、個人の作業環境の設定が可能です。 注意: このタイプのユーザーでも権限が与えられている場合は、他のユーザーの管理を行うことができます。

ユーザーの追加

ユーザーを追加するには、ユーザーに操作権限を割り当て、以下の作業を行ってください。

1. メニューバーで「Users」(ユーザー)を選択してください。
2. メインパネルの下側にある「Add」(追加)をクリックしてください。「User」タブが選択された状態で、ユーザー情報画面が開きます。

The screenshot shows the 'User Information' form within the 'User' tab of the application. The form is divided into several sections: 'User Information' with fields for Username, Password, Confirm Password, and Description; 'Role' with radio buttons for Super Administrator, Administrator, and User (selected); 'Permissions' with checkboxes for Device Management, System Management, Logs, User Management, and Keyboard/Mouse View; and 'Status' with checkboxes for Disable account, Account never expires (selected), Account expires on, User must change password at next logon, User cannot change password, Password never expires (selected), and Password expires after (30 days). A 'Save' button is located at the bottom right.

3. 各欄に必要な情報を入力してください。各欄の説明は下表の通りです。

項目	説明
Username (ユーザーネーム)	アカウントポリシーの設定に応じて、1～16 文字で設定してください。 p.100「アカウントポリシー」を参照してください。
Password (パスワード)	アカウントポリシーの設定に応じて、0～16 文字で設定してください。 p.100「アカウントポリシー」を参照してください。
Confirm Password (パスワード確認)	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。 ここにはパスワードの欄に入力された文字列と同じものを入力してください。
Description (情報)	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
Role (役割)	<p>スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリの中から選択することができます。システム上作成可能なユーザー数の範囲内であれば、各カテゴリとも作成するアカウントの数に上限はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スーパーアドミニストレーターは構成機器全体の設定やログの保守、ユーザー管理、およびデバイス/システム管理が可能です。スーパーアドミニストレーターの操作権限 (p.64 参照) はシステムによって自動的に割り当てられているため、変更することはできません。 ◆ アドミニストレーターのデフォルト操作権限には、キーボード/マウスの参照以外全てが含まれますが、操作権限チェックボックスにチェックを入れたり外したりして、各アドミニストレーターの操作権限を変更することができます。 ◆ ユーザーはデフォルトでは操作権限がありませんが、操作権限チェックボックスにチェックを入れたり外したりして、権限の設定を変更することができます。 <p>注意: ユーザー管理の権限が与えられたユーザーは、グループにアクセスしたり、グループの設定をしたりすることはできません。</p>

(表は次ページに続きます。)

項目	説明
Permissions (許可) 注意: 一般ユーザーは、デバイス管理、ポート設定、メンテナンスの各権限に加え、そのユーザーが管理できるデバイスやポートに対する権限を設定する必要があります。(詳細は p.76「デバイスの割り当て」参照)。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Device Management」(デバイス管理)を有効にすると、ユーザーは「Device Management」(デバイス管理)タブで設定やデバイスの参照を行うことができます (p.80「第8章デバイス管理」参照)。 ◆ 「User Management」(ユーザー管理)を有効にすると、ユーザーはユーザーやグループの作成、変更、および削除ができます。 ◆ 「Log」(ログ)を有効にすると、ユーザーはシステムログにアクセスすることができます (詳細は p.85「第9章ログ」参照)。 ◆ 「System Management」(システム管理)を有効にすると、ユーザーは「System Management」(システム管理)タブにアクセスして、設定を行うことができます。 ◆ 「Keyboard/Mouse View」(キーボード/マウスビュー)を有効にすると、ユーザーはビデオログビューワーからコントロールパネル機能を使用して、キーボードとマウス操作(キー入力/マウスクリック)の詳細なログを参照することができます。詳細は p.62 を参照してください。
Status (ステータス)	<p>下記のように、ユーザーアカウントと接続機器へのアクセスを管理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Disable Account」(アカウントを無効にする)を有効にすると、ユーザーのアカウントを削除するのではなく、一時的にアカウントの使用を停止させることができるので、後に必要となった場合でも、簡単に設定を戻すことができます。 ◆ アカウントの有効期限を設けたくない場合は、「Account never expires」(アカウントを無期限にする)を選択してください。アカウントに有効期限を設ける場合は、「Account expires on」(アカウント有効期限)を選択し、有効期限の日付を入力してください。 ◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「User cannot change password」(ユーザーはパスワードの変更不可)を選択してください。

(表は次ページに続きます。)

項目	説明
Status (ステータス) (前頁より続き)	<p>◆ セキュリティの目的で、アドミニストレーターはユーザーに対し、定期的なパスワードの変更を要求することができます。</p> <p>➤ そうでない場合は、「Password never expires」(パスワードを無期限にする)を選択すれば、現在のパスワードを任意の期間使用し続けることができます。</p> <p>➤ 変更させる場合は、「Password expires after」(パスワード有効期限)を選択し、パスワードが期限切れになるまでの日数を入力してください。期限切れになると、新しいパスワードを設定しなければなりません。</p>

4. ユーザーの作成時に、「Groups」(グループ)タブを選択して、グループに新しいユーザーを割り当てることができます。「Groups」(グループ)画面については p.72 で説明します。または「Device」(デバイス)タブを選択して、ユーザーのデバイスへのアクセス権を割り当てたり(p.76 参照)、「System」(システム)タブを選択して VSR 設定権を割り当てたり(p.78 参照)することができます。
5. 各項目への入力完了したら「**Save**」(保存)をクリックしてください。
6. 「Operation Succeeded」(操作に成功しました)のメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックしてください。
7. メイン画面に戻るには、サイドバーの「**Users**」(ユーザー)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメイン画面に新しいユーザーが表示されます。
 - ◆ サイドバーのユーザーリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「ユーザー」の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 首に赤い二重のバンドがついているアイコンはスーパーアドミニストレーターを、また、首に黒い一重のバンドがついているアイコンはアドミニストレーターをそれぞれ表します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはユーザーの名前、アカウント作成時に設定された説明、アカウントの状態(有効/無効)が表示されます。

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「User」(ユーザー)リストから、編集対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、編集対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メイン画面の「User」(ユーザー)タブで内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意: 「ユーザー」タブに関する詳細は p.64 に、「グループ」タブに関する詳細は p.69 に、「デバイス」タブに関する詳細は p.76 にそれぞれ表示されています。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、削除対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Delete**」(削除)ボタンをクリックしてください。
3. 「**OK**」ボタンをクリックしてください。

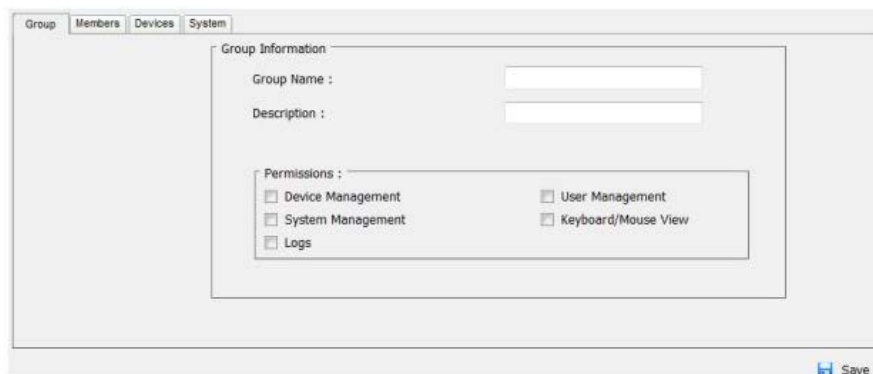
グループ

管理者はこのメニューを使ってユーザーやデバイスを簡単かつ効率的に管理することができます。グループ単位で設定を行うことで、デバイスのアクセス権限はグループの全メンバーに適用されますので、管理者は個々のユーザーに対して権限を設定する手間が省けます。複数のグループを定義して、複数のユーザーに特定のデバイスへのアクセスを許可したり、反対に、特定のデバイスへのアクセスを禁止したりすることができます。

グループの作成

グループを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メニューバーから「Groups」(グループ)を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。下図のように「Groups」タブが選択された状態で画面が表示されます。



3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Group Name(グループネーム)	最大 16 文字で設定してください。
Description(説明)	グループに関する付加情報があれば、最大 63 文字でこの欄に入力してください。
Permissions(許可)	グループに対する操作許可と操作制限は、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。これらの権限は「ユーザー」タブの権限と同じです。詳細については p.66 をご参照ください。

4. グループの作成時に、「Members」(メンバー)タブで新しいユーザーをグループに登録することができます(「Members」タブについては p.74 参照)。「Devices」タブではグループにデバイスアクセス権限(「Devices」タブについては p.76 参照)を、「System」タブでは VSR 設定権限(「Systems」タブについては p.78 参照)を割り当てることができます。
5. 各項目への入力が終わったら「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 「Operation Succeeded」のメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックしてください
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「**Groups**」(グループ)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいグループが表示されます。
 - ◆ サイドバーのグループリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「Users」(ユーザー)アイコンの隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはグループの名前、グループ作成時に設定された説明が表示されます(「Status」(ステータス)欄は無効になっています)。

注意: 新しいグループを追加する前に、必ず手順 7 の操作を行ってください。この操作を行わないと、作成したばかりのグループが新規に作成しようとしているグループに置き換わってしまいます。

グループの編集

グループを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「Group」(グループ)リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「**OK**」をクリックしてください。
4. 「Group」画面が表示されたら、内容を変更し、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

注意: 「Group」(グループ)タブに関する詳細は p.69 に、「Member」(メンバー)タブに関する詳細は p.74 に、「Device」(デバイス)タブに関する詳細は p.76 に、「System」(システム)タブに関する詳細は p.78 にそれぞれ表示されています。

グループの削除

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーで、「Group」(グループ)アイコンをクリックしてください。
2. 削除対象となるグループの名前をメインパネルから選択してください。
3. 「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。
4. 「OK」ボタンをクリックしてください。

ユーザーとグループ

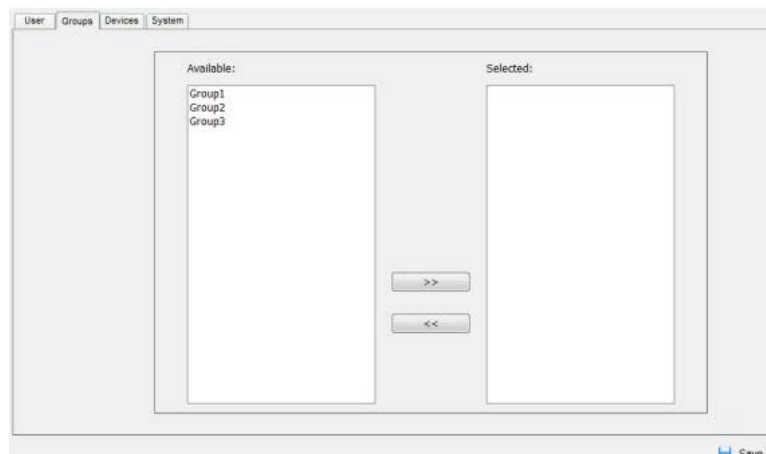
ユーザーやグループの管理は、「Users」(ユーザー)タブ、「Group」(グループ)タブのどちらからでも操作することができます。

注意: ユーザーをグループに割り当てる前に、それらを事前に作成しておいてください。詳細については p.64 をご参照ください。

ユーザータブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合

「User」(ユーザー)タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「User」(ユーザー)タブが表示されたら、「Groups」(グループ)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



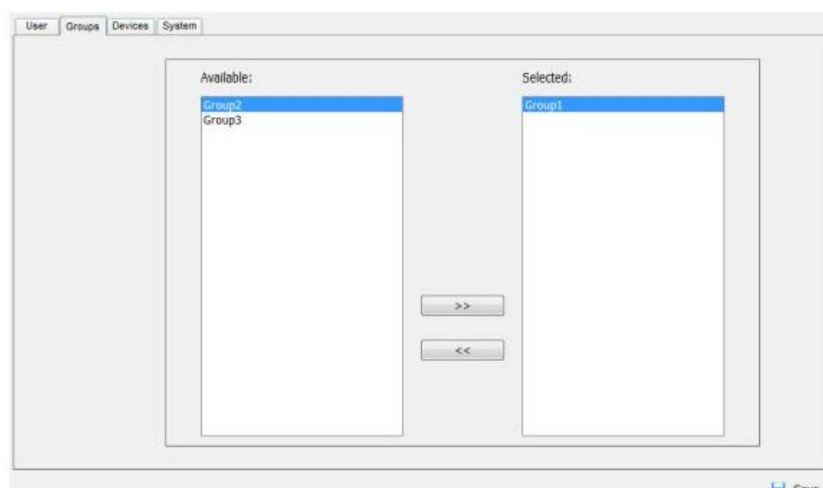
4. 「Available」(有効)リストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。
5. 右矢印のボタン(>>)をクリックして、手順 4 で選択したグループを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
6. 他にもユーザーの所属グループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. グループの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

注意: グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

ユーザータブを使ってグループからユーザーを削除する場合

「User」(ユーザー)タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「User」(ユーザー)タブが表示されたら、「Groups」(グループ)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

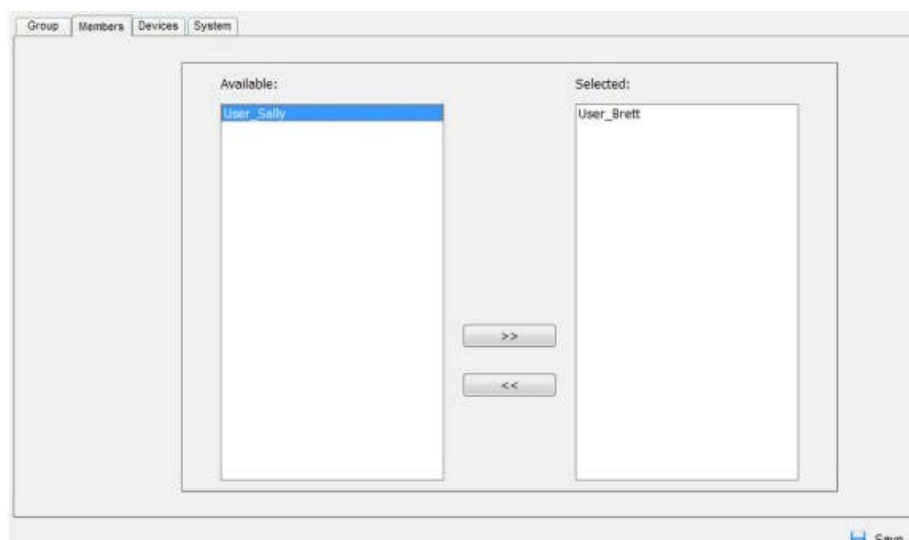


4. 「Selected」(選択)リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
5. **左矢印**のボタン(<)をクリックして、手順4で選択したグループを削除してください。(選択されたグループは「Available」(有効)リストに戻ります。)
6. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. ユーザーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

グループタブを使ってユーザーをグループに登録する場合

「Groups」(グループ)タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「Group」(グループ)タブが表示されたら、「Member」(メンバー)タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



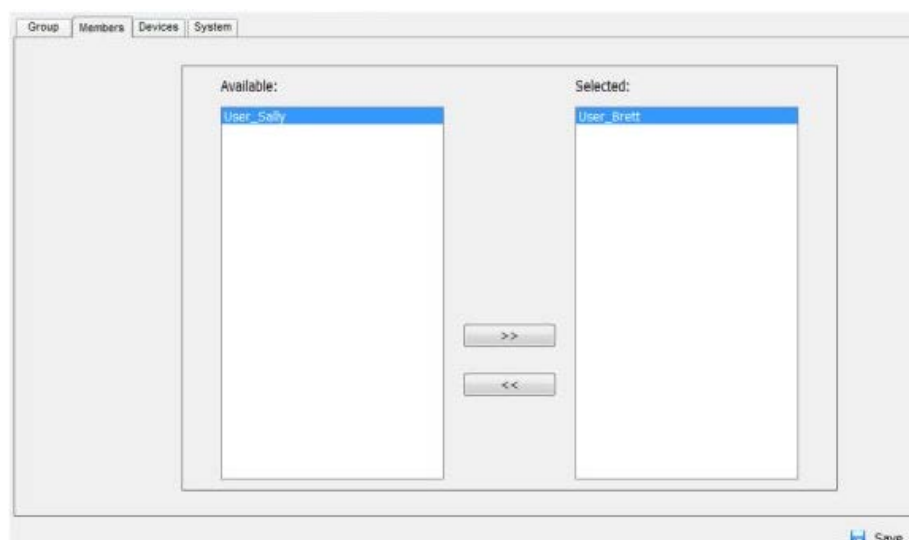
4. 「Available」(有効)リストから、手順 1 で選択したグループのメンバーとなるユーザーを選択してください。
5. **右矢印**のボタン(>>)をクリックして、手順 4 で選択したユーザーを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
6. 他にも追加したいメンバーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. メンバーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

注意: グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

グループタブを使ってグループからユーザーを削除する場合

「Group」(グループ)タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「Group」(グループ)タブが表示されたら、「Member」(メンバー)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



4. 「Selected」(選択)リストから、グループの登録を解除したいユーザーを選択してください。
5. **左矢印**のボタン(<<)をクリックして、手順 4 で選択したユーザーを削除してください。(選択されたユーザーは「Available」(有効)リストに戻ります。)
6. 他にもグループから除外したいユーザーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. ユーザーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

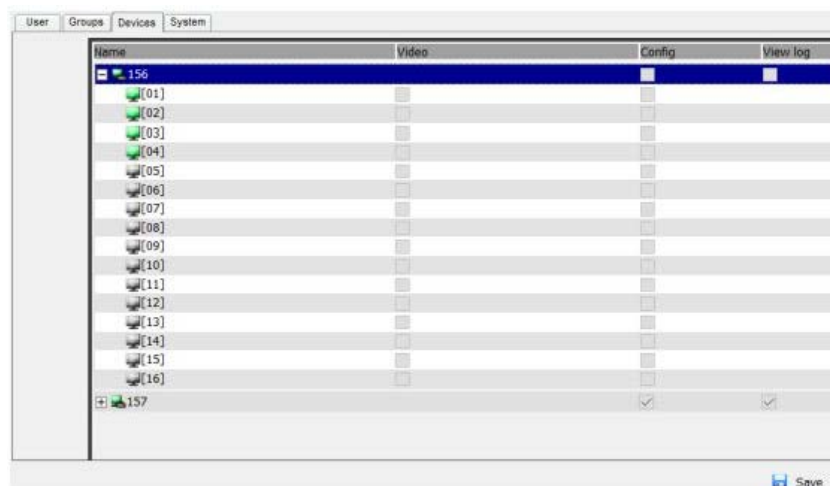
デバイスの割り当て

ユーザーがビデオセッションレコーダーにログインすると、「Playback」(再生)タブの画面が最初に表示され、そのユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて、画面左側のポートリストに一覧表示されます。ポートやポートに接続されたデバイスに対するアクセス権限は、「User Management」(ユーザー管理)タブのサイドバーにある「ユーザー」または「グループ」リストからポートごとに割り当てられます。

ユーザータブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

「User」(ユーザー)タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「User」(ユーザー)タブが表示されたら、「Device」(デバイス)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



4. 下記を参考にしながら、各ポートの権限設定を行ってください。

Name(名前): 現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されます。

Video(ビデオ): このボックスにチェックを入れると、ユーザーはポートのビデオログの検索・参照ができるようになります。

Config(設定): このボックスにチェックを入れると、ユーザーは「Device Management」(デバイス管理) タブで表示されるデバイスに対するポートを有効/無効にすることができます。操作権限はトップダウンで適用されるので、アクセス可能な KVM デバイスより下にあるこのポートには、順番通りの KVM スイッチを選択しなければなりません。

View Log(ログの参照): このボックスにチェックを入れると、ユーザーは「Log」(ログ) タブから KVM デバイスのシステムログを参照することができます。

5. 内容を設定したら、「**Save**」(保存) ボタンをクリックしてください。
6. 確認ダイアログが表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

グループタブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

「Group」(グループ) タブを使ってグループ単位でユーザーにデバイスの操作権限を割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「グループ」リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更) ボタンをクリックしてください。
3. 「Group」(グループ) タブが表示されたら、「Device」(デバイス) タブを選択してください。
4. 「ユーザー」タブからデバイスの操作権限を割り当てる場合と同じ画面が中央に表示されますので、p.76 の手順に従ってデバイスに操作権限を割り当ててください。
p.76 の手順ではユーザー単位でしか操作権限が割り当てられないのに対し、この手順ではグループ全体に同じ操作権限を割り当てることができます。

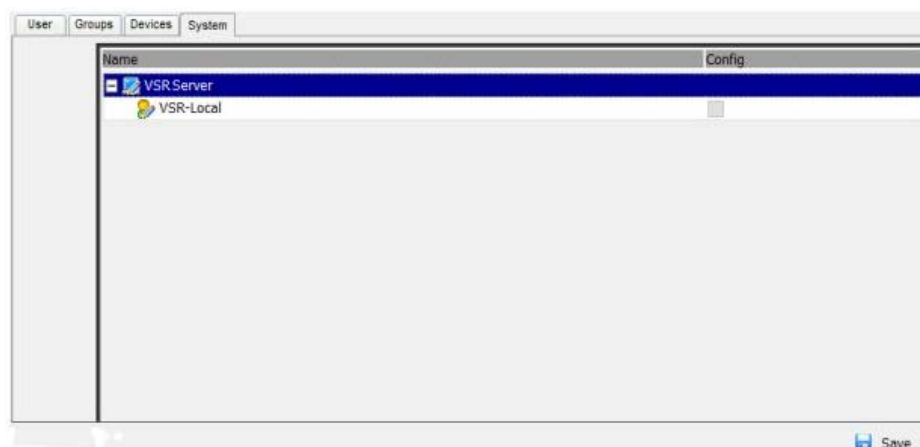
システム設定権限

「System」(システム)タブでは、管理者がユーザーやグループに対して、「System Management」(システム管理)タブからシステムの設定変更を行う権限を与えることができます。

ユーザータブからシステム設定権限を割り当てる

「User」(ユーザー)タブからシステム設定権限をユーザーに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「ユーザー」リストから、編集対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルで、編集対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「User」タブが表示されたら、「System」(システム)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

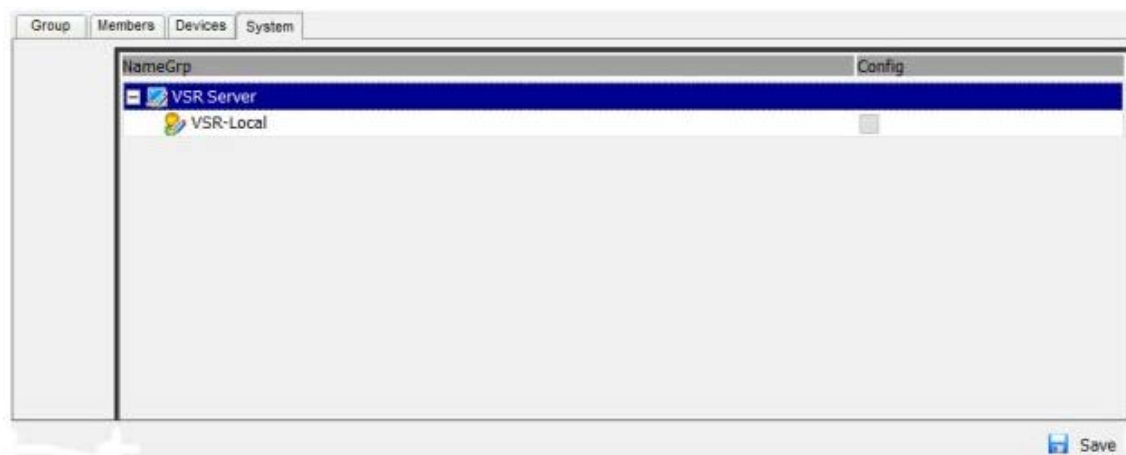


4. システム設定の変更を許可したいビデオセッションレコーダー(VSR)を選択してください。
5. 「**Config**」(設定)をクリックしてチェックを入れてください。
6. 「**Save**」(保存)をクリックしてください。

グループタブからシステム設定権限を割り当てる

「Group」(グループ)タブからシステム設定権限をユーザーに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「グループ」リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. 「Group」(グループ)タブが表示されたら、「System」(システム)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

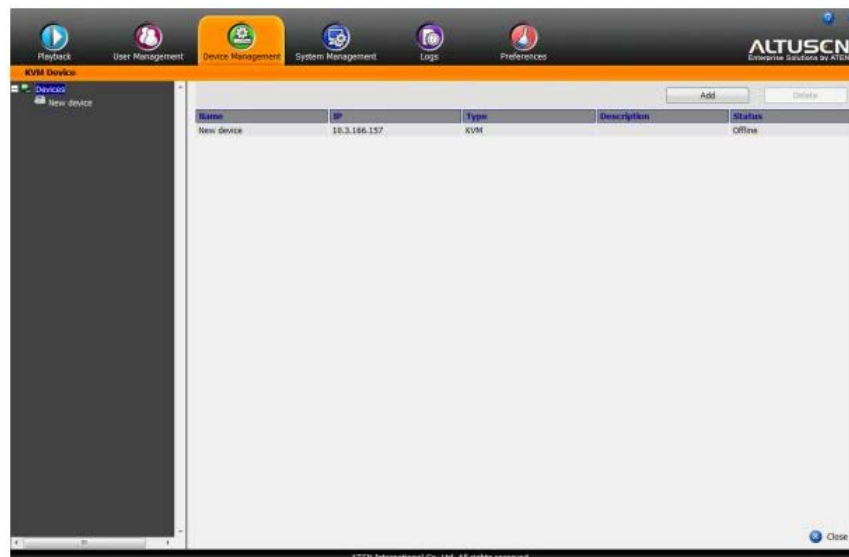


4. システム設定の変更を許可したいビデオセッションレコーダー(VSR)を選択してください。
5. 「**Config**」(設定)をクリックしてチェックを入れてください。
6. 「**Save**」(保存)をクリックしてください。

第8章 デバイス管理

概要

「Device Management」(デバイス管理)タブはビデオセッションレコーダーがビデオログを記録できる KVM デバイスを追加し、そのポートを設定することができます。「Device Management」(デバイス管理)タブを開くと、サイドバーでは「Devices」(デバイス)が選択され、メイン画面では追加された KVM デバイスのリストが表示されます。



KVM ポートの記録

ビデオログを記録するには、KVM スイッチを追加し、それから KVM の「Device Settings」(デバイス設定)画面でそのスイッチやポートを有効にしなければなりません。有効とされたポートは、KVM スイッチを通じてアクセスされるたびにビデオセッションレコーダーによって記録され、ビデオログファイルとして保存されます。ログは「Playback」(再生)タブで参照することができます。有効にできる KVM デバイスの台数やポート数に上限はありません。ビデオセッションレコーダーは、複数の KVM デバイス間で最大 12 ポートを同時に記録することができます。

KVM デバイス側の設定

1. 「Device Management」(デバイス設定)画面から「ANMS」をクリックしてください(下図は KVM デバイス側(画像は KN4140v)での設定例です)。

The screenshot shows the 'Authentication' tab of the 'Event Destination' settings. It contains two main sections: 'SMTP Settings' and 'Log Server'.

SMTP Settings:

- ☐ Enable report from the following SMTP Server
- SMTP Server: [text field]
- ☐ My server requires secure connection (SSL)
- ☐ My server requires authentication
- Account Name: [text field]
- Password: [text field]
- From: [text field]
- To: [text field]

Log Server:

- ☒ Enable
- MAC Address: [text field with value 00ABCD010101]
- Service Port: [text field with value 9002]

2. 「Event Destination」(イベント通知先)メニューをクリックしてください。「Log Server」(ログサーバー)の「Enable」(有効)にチェックを入れ、「MAC Address」(MAC アドレス)欄にビデオセッションレコーダーサーバーのネットワークの MAC アドレスとサービスポート番号(デフォルトでは 9002)を入力してください。
3. 「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

KVM デバイスの追加

「KVM Device」(KVM デバイス)リストに KVM スイッチを追加するには、下記の手順に従ってください。

1. 「Device Management」(デバイス管理)画面から「Add」(追加)をクリックしてください。
ポップアップウィンドウが表示されます。



2. 追加したい KVM スイッチの IP アドレスとサービスポート番号を入力してから、「Add」(追加)をクリックしてください。
3. KVM スイッチがサイドバーの「Devices」(デバイス)リストと「Device Management」(デバイス管理)メイン画面に表示されます。

注意:

1. KVM スイッチの追加後、KVM デバイスの「Status」欄が「オンライン」になっていることを確認してください。
2. ステータスが「オフライン」の場合、KVM デバイスがネットワークに接続していないことを表しています。IP アドレスとサービスポート番号が正しいかどうか確認してください。正しい場合、KVM スイッチはオンラインとなります。

KVM デバイスのビデオセッションを有効にする

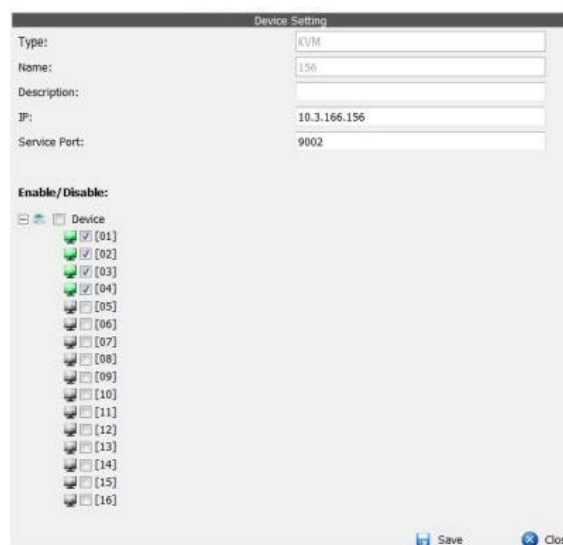
KVM スイッチに対するビデオセッションの記録を有効にする場合は、下記の手順に従ってください。

1. サイドバーの「Device」(デバイス)リストから KVM デバイスの名前をクリックしてください。
2. 「Device」(デバイス)ボックスの「Enable/Disable」(有効/無効)にチェックを入れてください。
3. これで KVM スイッチはアクセスされる度にビデオセッションが記録されるようになります。個々のポートに有効/無効を設定する場合は、次ページの「KVM ポートの設定」を参照してください。

KVM ポートの設定

KVM スイッチにアクセスする度にビデオセッションレコーダーが KVM ポートを記録できるようにするために、KVM ポートを有効にするには、下記の手順に従ってください。

1. サイドバーの「Devices」(デバイス)リストから KVM デバイスの名前をクリックしてください。
2. KVM の「Device Settings」(デバイス設定)画面が表示されます。



3. ビデオセッションレコーダーで記録したいポートを有効にするには、チェックボックスにチェックを入れてください。有効としたポートが KVM スイッチを通じてアクセスされる度にビデオログが作成されます。
4. KVM のデバイス設定を終えたら、「**Save**」(保存)をクリックしてください。

「Device Settings」(デバイス設定)欄の説明は下表の通りです。

項目	説明
Type(タイプ)	参照用として、スイッチのデバイスタイプを表します。
Name(名前)	参照用として、KVM スイッチの名前を表します。
Description(説明)	KVM デバイスに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
IP	KVM スイッチの IP アドレスをここに入力してください。
Service Port (サービスポート)	KVM スイッチのサービスポート番号をここに入力してください。

(表は次ページに続きます。)

項目	説明
Enable/Disable(有効/無効)	<p>ボックスにチェックを入れると、そのポートは有効となり KVM スイッチを通じてアクセスされる度にビデオログが記録されます。</p> <p>チェックが入っていない場合、そのポートは無効となり、ビデオログは記録されません。</p> <p>KVM デバイスのチェックボックスにチェックを入れてポート全てを有効にすることも、またはポートをそれぞれ選択して有効にすることも可能です。</p>

KVM デバイスの削除

「KVM Device」(KVM デバイス)リストから KVM スイッチを削除するには下記の作業を行ってください。

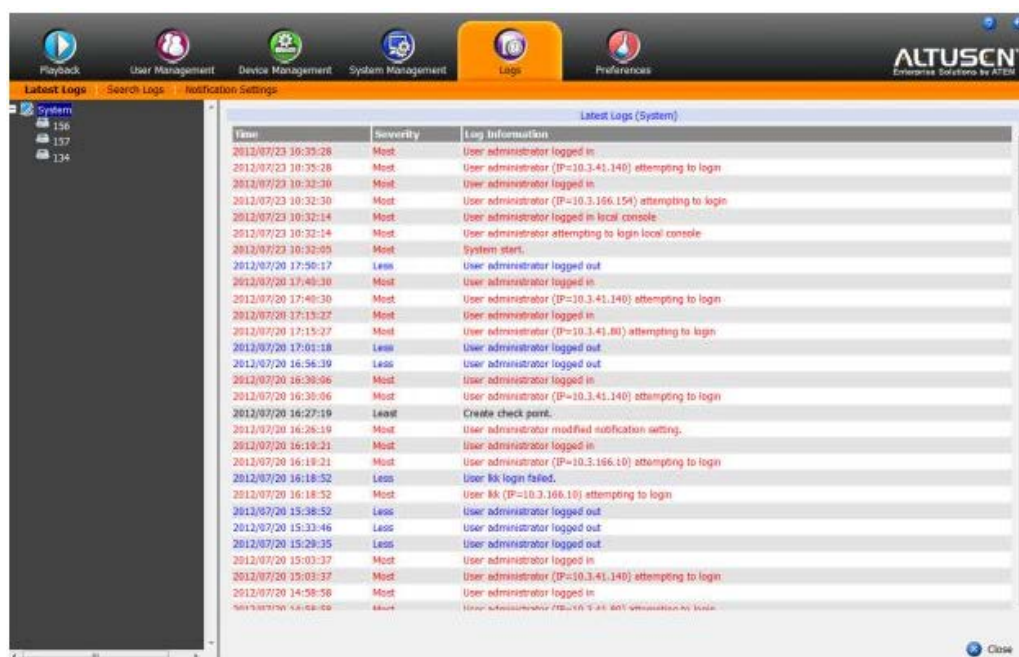
1. メイン画面から削除したい KVM デバイスを選択してください。
2. 「Delete」(削除)をクリックしてください。

第9章

ログ

概要

ビデオセッションレコーダーは発生した全イベントをログとして記録します。ログの内容を確認する場合は、「Log」(ログ)タブをクリックしてください。タブをクリックすると、下図のように「Latest Logs」(最新ログ)の画面が選択された状態で表示されます。



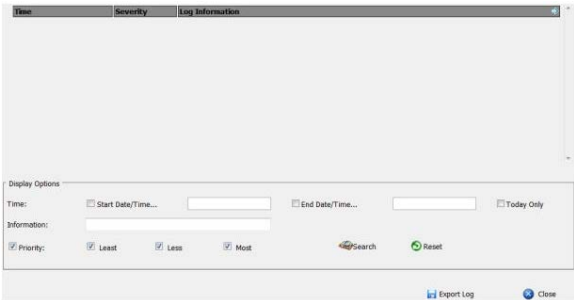
最新ログ

「Latest Logs」(最新ログ)の画面では、ビデオセッションレコーダーで発生したイベントや、イベントの時刻、重要度、ユーザーの概要、またログ情報がそれぞれ表示されます。

ログファイルは、最大 512 のイベントを記録します。記録されたイベントの数が 512 になると、新しいイベントが発生した際に、一番古いイベントが切り捨てられます。「System」(システム)メニューでイベントログをフィルタリングすることもできますし、サイドバーのツリー表示から KVM デバイスを選んでフィルタリングすることもできます。

ログの検索

「Search Log」(ログの検索)画面では、ログを「時刻」、「情報」および「重要度」によって検索することができます。さらに、検索結果を専用ログファイルにエクスポートすることもできます。メニューバーから「Search Log」(ログの検索)をクリックすると、下図のような画面が表示されます。



この画面の下部に表示される各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Time(時刻)	<p>特定の時刻に発生したイベントを検索します。指定できる条件は下記の通りです。</p> <p>Today Only(本日のみ): 現在の日付で発生したイベントのみ表示します。</p> <p>Start Date/Time(開始日付/時刻): 特定の日時から現在の間 に発生したイベントを検索します。このチェックボックスにチェッ クを入れると、カレンダーコントロールが表示されます。日時を選 択したら、カレンダーパネルの右下にある「A」アイコンをクリッ クしてください。</p> <p>検索開始日時を設定してください。その検索開始日から現 在までに発生したイベント全てを表示します。</p> <p>End Date/Time(終了日付/時刻): 特定の期間に発生したイベ ントを検索します。最初に、「開始日付/時刻」(上記参照)を選 択したら、「終了日付/時刻」の隣にあるチェックボックスにチェ ックを入れて、終了日時を設定してください。</p> <p>このチェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスをクリッ クすると、カレンダーコントロールが表示されます。日時を選択 したら、カレンダーパネルの右下にある「A」アイコンをクリックし てください。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Information(情報)	<p>特定のキーワードを含むイベントを検索します。キーワードをこのテキストボックスに入力してください。その文字列を含むイベントだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1 文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。</p> <p>例:「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」または「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。「h*nd or h*ks」という文字列を指定した場合、「hand」と「hooks」がヒットします。</p>
Priority(重要度)	<p>イベントの重要度に基づいてイベントを検索します。イベントの重要度が「最小」の場合は黒色、「少ない」の場合は青色、「最大」の場合は赤色でそれぞれ表示されます。</p> <p>まず、このチェックボックスにチェックを入れてから、指定したい条件のチェックボックスにチェックを入れてください(複数指定可能)。指定した重要度に一致したイベントのみが表示されます。</p>
Search(検索)	クリックすると、指定された条件で検索を行います。
Reset(リセット)	クリックすると、検索条件を消去してデフォルトの状態に戻します。
Export Log(ログのエクスポート)	クリックすると検索ログを「*.csv」ファイルとして「Save」(保存)または「Open」(開く)を問うウィンドウが表示されます。

通知設定

「Notification Setting」(通知設定)メニューでは、通知のトリガーとなるイベントを選択したり、イベントの通知方法について設定したりすることができます。

Event	SNMP	SMTP	Syslog
Authentication events			
Login	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Login fail	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
User locked	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
IP address locked	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Logout	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Viewer start	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Viewer ended	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
End session	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
VLS events			
Add user	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify user	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Delete user	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Add group	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify group	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Delete group	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Add device	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify device	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Delete device	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify Log Server setting	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify notification settings	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify ANMS settings	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify Security	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Modify network settings	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Backup system configuration	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Restore system configuration	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Restore system configuration fail	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Create check point	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
System start	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
System stop	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Invalid IP access	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Disk full	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イベント通知は、SNMPトラップ、SMTP メール、Syslog ファイル、また、これらの方法を組み合わせて行うことができます。チェックマーク(✓)が付いている場合、イベントの通知がその列に記載されている方法で行われることを表します。また、チェックマークが付いていない場合、その通知機能が無効になっていることを表します。

注意: [Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のイベント通知の設定を同時に定義することができます。各列の印をクリックすると、その列の設定内容を同時に有効または無効に切り替えます。

第 10 章

システム管理

概要

「System Management」(システム管理)タブは、ビデオセッションレコーダーのシステム設定を参照し、管理する際に使用します。「System Management」(システム管理)タブを選択すると、「System Info」(システム情報)画面が選択された状態で画面が開きます。



この画面は左側にサイドバー、右側に大きなメイン画面というように 2 つの画面に分かれています。

- ◆ 「Log Servers」(ログサーバー)リストは画面の左側にあるパネルに表示されます。右側の大きなパネルにはメニューまたはサイドバーの選択内容に関する詳細情報が表示されます。
- ◆ サイドバーリストから「Log Servers」(ログサーバー)またはビデオセッションレコーダーを選択するメニューバーのオプションが別途設けられています。
- ◆ 「Log Servers」(ログサーバー)を選択すると、メニューバーに「System Info」(システム情報)、「Network」(ネットワーク)、「ANMS」そして「Security」(セキュリティ)が表示されます。
- ◆ サイドバーからビデオセッションレコーダーが選択されると、その「Log Server Settings」(ログサーバー設定)画面が表示されます。

システム情報

「System Management」(システム管理)タブを選択すると、「System Info」(システム情報)画面が表示され、下図のようにローカルビデオセッションレコーダーに関する一般情報が表示されます。

General	
Server Name:	8420P-BRETT
Version Number:	V1.0.060.20121024
Server MAC:	50E549EDA74A
IP Address:	10.3.41.140
IPv6 Address:	fe80::c456:d743:ccd8:ab5c

項目	説明
Server Name(サーバー名)	ビデオセッションレコーダーアプリケーションをホスティングしているサーバーの名前を表示します。
Version Number(バージョン)	ビデオセッションレコーダーのファームウェアバージョンを表示します。
Server MAC (サーバーのMAC アドレス)	ビデオセッションレコーダーアプリケーションをホスティングしているサーバーの MAC アドレスを表示します。
IP Address (IP アドレス)	ビデオセッションレコーダーの IP アドレスを表示します。
IPv6 Address (IPv6 アドレス)	ビデオセッションレコーダーの IPv6 アドレスを表示します。

VSR-ローカル

サイドバーに表示された VSR-ローカルデバイスはローカルビデオセッションレコーダー用のシステム設定画面となっています。このデバイスを選択すると、ビデオセッションファイルを保存するために、「IP アドレス」、「名前」、「説明」、「ローカル VSR スペース」の設定を行うことができます。これから設定の詳細は、p.106「ログサーバー」を参照してください。

ネットワーク

「Network」(ネットワーク)画面では下図のように、ビデオセッションレコーダーにアクセスするのに使用するサービスポートを設定することができます。

Service Ports	
Program:	9002
HTTP:	9080
HTTPS:	9443

セキュリティの面からファイアーウォールが導入されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を製品側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートを使っている場合、ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部分のポート番号を入力しなくてはなりません。入力するポート番号が正しくなかったり、入力されていないとビデオセッションレコーダーを検索しても表示されません。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Program(プログラム)	セカンダリサーバーとして VSR アプリケーションを実行しているコンピューターをビデオログプライマリサーバーに接続するためのポート番号です。デフォルトでは 9002 に設定されています。
HTTP	ブラウザログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは 9080 に設定されています。
HTTPS	SSL 通信によるブラウザログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは 9443 に設定されています。

例:IP アドレスが 192.168.0.100 であるビデオセッションレコーダーに SSL 通信によるブラウザログイン(https)を使用してアクセスする場合、下記を入力してください。

https://192.168.0.100:9443

- | | |
|------------|---|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. 各サービスポートで有効な値は 1~65535 です。2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。 |
|------------|---|

AMNS

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。このメニューは2種類のタブから構成されています。各タブの内容は、下記の通りです。

イベント送り先

The screenshot shows the 'Event Destination' tab in the ANMS menu. It contains three sections for configuring event destinations:

- SMTP Settings:** Includes a checkbox 'Enable report from the following SMTP Server'. Below it are input fields for 'SMTP Server:', 'Account Name:', 'Password:', 'From:', and 'To:'. There are also checkboxes for 'My server requires secure connection (SSL)' and 'My server requires authentication'.
- SNMP Server:** Includes a checkbox 'Enable SNMP Agent'. Below it are input fields for 'Server IP:' and 'Service Port:'.
- Syslog Server:** Includes a checkbox 'Enable'. Below it are input fields for 'Server IP:' and 'Service Port:'.

◆ SMTP 設定

SMTP サーバーからのビデオセッションレコーダーのレポートをユーザーにメール通知する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「以下の SMTP サーバーからの通知を有効にする」の項目にチェックを入れ、お使いの SMTP サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
2. お使いの SMTP サーバーに SSL 接続が必要な場合は、「My server requires secure connection (SSL)」の項目にチェックを入れてください。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「サーバー認証が必要です」の項目にチェックを入れて、「アカウント名」、「パスワード」の各欄にお使いの環境に適した値を設定してください。

4. レポートの差出人となるメールアドレスを「From」欄に入力してください。

注意: 1. 「From」欄に設定できるメールアドレスは一つだけです。64 バイト以内で設定してください。

2. 1 バイトは半角英字 1 文字に相当します。

5. レポートの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。

注意: 複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、宛先のアドレス全体で 256 バイト以内になるように設定してください。

◆ SNMP サーバー

SNMP トラップイベントの通知を受ける場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Enable SNMP Agent」(SNMP エージェントを有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. SNMP トラップイベントの通知を受けるコンピューターの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを「Server IP」(サーバーIP)欄に入力してください。
3. 「Service Port」(サービスポート)欄にポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1～65535 です。

注意: SNMP トラップイベントで通知されるログは、「Log」タブの「Notification Settings」(通知設定)メニューで設定することができます。詳細については p.88 をご参照ください。

◆ Syslog サーバー

ビデオセッションレコーダー内部で発生した全イベントを記録し、Syslog サーバーに書き込む場合は、下記の手順に従って設定してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを「Server IP」(サーバーIP)欄に入力してください。
3. 「Service Port」(サービスポート)欄にポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1～65535 です。

認証

◆ RADIUS 設定

RADIUS サーバー経由でビデオセッションレコーダーへの認証を行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 優先 RADIUS サーバー、代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号をそれぞれ入力してください。IP の各欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかで設定してください。
3. 「Timeout」(タイムアウト)の項目に、製品が RADIUS サーバーの応答を待機する最大時間(秒)を入力してください。
4. 「Retries」(再試行)の項目に、RADIUS サーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
5. 「Shared Secret」(共有シークレット)の項目に、RADIUS サーバーとの認証で使用する共有シークレットの文字列を 6 文字以上で入力してください。

6. RADIUS サーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

- ユーザーエントリーを「su/xxxx」として設定する。
「xxxx」の部分は、製品でアカウントを作成した際にユーザーに与えられたユーザー
ネームに置き換えてください。
- RADIUS サーバー側とビデオセッションレコーダー側で同じユーザーネームを使用
する。
- RADIUS サーバー側とビデオセッションレコーダー側で同じグループネームを使用
する。
- RADIUS サーバー側とビデオセッションレコーダー側で同じユーザーネーム、グルー
プネームを使用する。

いずれの方法においても、ユーザーのアクセス権限は、グループユーザーがビデオセッ
ションレコーダーで作成された際に割り当てられた権限になります(p.64 参照)。

◆ LDAP/LDAPS による認証および権限設定

ビデオセッションレコーダーにログインするユーザーの認証および権限設定を LDAP/LDAPS
で行う場合は、以下の表をご参照ください。

項目	説明
Enable(有効にする)	LDAP/LDAPS による認証および権限設定を行う場合は、この項目 にチェックを入れてください。
Type(タイプ)	この機能を有効にした時に、LDAP と LDAPS のどちらを使って認証 を行うかをラジオボタンで選択してください。
LDAP Server IP Port (LDAP サーバーIP ポート)	LDAP/LDAPS サーバーの IP アドレスやポート番号を入力してくださ い。 ◆ 「LDAP Server」(LDAP サーバー)欄は、IPv4 アドレス、IPv6 ア ドレス、ドメイン名を使って設定できます。 ◆ LDAP サーバーのデフォルトポート番号は 389、LDAPS サーバ ーのデフォルトポート番号は 636 です。
Admin DN(アドミニス トラーターDN)	この項目に入力する値は LDAP/LDAPS サーバーの管理者にご確 認ください。以下、設定例です。 ou=kn4132,dc=aten,dc=com
Admin Name(アドミニ ストレーター名)	LDAP アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password(パスワード)	LDAP アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Search DN(サ ー チ DN)	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの 検索を開始する DNS 名です。

項目	説明
タイムアウト	ビデオセッションレコーダーが LDAP/LDAPS サーバーの応答を待機する時間(秒)を設定してください。

LDAP/LDAPS サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

◆ Active Directory スキーマを使用

注意: この方法を用いる場合、Active Directory の LDAP スキーマを拡張する必要があります。

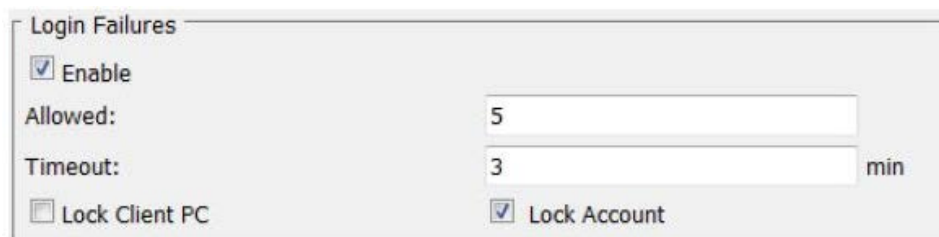
- ◆ スキーマを使用せず、ビデオセッションレコーダー上で使用されているユーザー名だけを LDAP/LDAPS サーバー上の名前に一致させる。ユーザー権限は製品上で設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、製品上で使用されているグループだけを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループに設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、Active Directory のユーザー名とグループを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループとユーザーに設定されている権限と同じ。

セキュリティ

「Security」(セキュリティ)メニューは 3 つのメインパネルから構成されています。これらのパネルについては、後のセクションで説明します。

ログイン失敗

セキュリティを強化するために、このセクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。



これらのポリシーを設定する場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れてください(デフォルトではこの項目にチェックが入っています)。各項目が表す内容は下表のとおりです。

項目	説明
Allowed(許可)	リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは 5 回に設定されています。
Timeout(タイムアウト)	ログイン連続試行可能回数を超過してしまった場合に、次のログインまでに待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは 3 分に設定されています。
Lock Client PC(ロッククライアント PC)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのコンピューターは自動的に締め出され、そのコンピューターからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。 注意: この機能はクライアントコンピューターの IP アドレスに基づいて処理されています。IP アドレスが変更されると、このコンピューターはロックされなくなります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Lock Account(ロックアカウント)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、そのアカウントからのログインは拒否されてしまいます。ログイン連続試行回数を超過してしまったユーザーネームとパスワードではログインすることができません。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。

注意: このセクションの項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティを維持するためにも、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを設定されることを推奨します。

フィルター

◆ IP フィルター

IP フィルター機能は、ビデオセッションレコーダーへの接続を試みるコンピューターの IP アドレスに基づいて、このユニットへのアクセスを制御するものです。IP フィルターは最大で 100 項目作成することができます。フィルターは設定されると、リストボックスに表示されます。

IP フィルターの機能を有効にする場合は「IP Filter Enable」(IP フィルター有効)の項目をクリックして、チェックを入れてください。

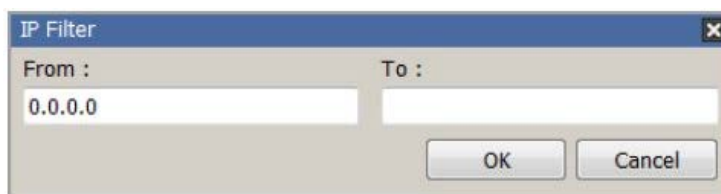
- 「含む」ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの製品へのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて拒否されます。

- 「除く」ボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの製品へのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可されます。

◆ フィルター項目の追加

IP アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。

A screenshot of a dialog box titled "IP Filter". It contains two input fields: "From :" and "To :". The "From :" field has the text "0.0.0.0" entered. The "To :" field is empty. At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

2. 「From」欄にフィルタリングの起点となる IP アドレスを入力してください。
3. 「To」欄に終点となる IP アドレスを入力してください。
 - IP アドレスが 1 つだけの場合は、「From」欄と「To」欄に同じ IP アドレスを入力してください。
4. IP アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
5. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

◆ フィルターの変更

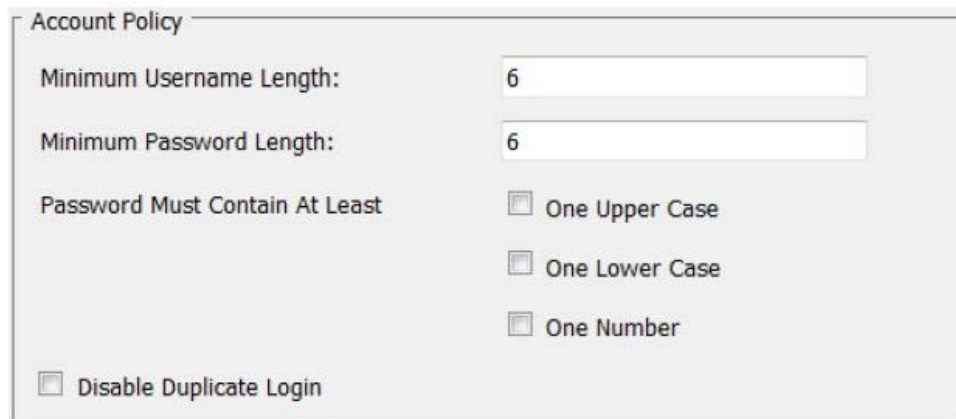
フィルターを変更する場合は、対象となる項目を IP フィルターリストボックスから選択し、「Modify」(変更)ボタンをクリックしてください。フィルター追加時に表示されるダイアログと同様のダイアログが表示されますので、古いアドレスを削除して、新しいアドレスに変更してください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目を IP フィルターリストボックスから選択し、「Delete」(取り除く)ボタンをクリックしてください。

アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定することができます。



Account Policy

Minimum Username Length: 6

Minimum Password Length: 6

Password Must Contain At Least

- ☐ One Upper Case
- ☐ One Lower Case
- ☐ One Number

☐ Disable Duplicate Login

このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Minimum Username Length (ユーザー名最小文字数)	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は1～16です。デフォルトでは6に設定されています。
Minimum Password Length (パスワード最小文字数)	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 0～16 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要になり、ユーザーはユーザーネームだけでログインできるようになります。デフォルトでは6に設定されています。
Password Must Contain At Least (パスワードには以下が必須です)	これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。 大文字 1 文字 - 半角英字の大文字を 1 文字以上入力 小文字 1 文字 - 半角英字の小文字を 1 文字以上入力 数字 1 文字 - 半角数字を 1 文字以上入力 注意: このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。
Disable Duplicate Login (二重ログインの無効化)	同一アカウントで二重にログインするのを許可しない場合は、この項目にチェックを入れてください。

自己署名(プライベート)証明書

セキュア(SSL)接続を通じてログインする際に、ユーザーが目的のサイトにログインすることを確認するのに、署名付証明書が使用されます。セキュリティを強化するために、「自己署名(プライベート)証明書」の章では、デフォルトの ATEN の証明書を使用する代わりに、ご自身の自己署名暗号キーや証明書を使用する方法について説明します。



プライベート証明書を作成するには、自己署名証明書を作成するのと、サードパーティー認証局(CA)が署名した証明書をインポートするのと、2通りの方法があります。

◆ 自己署名証明書の作成

自己署名証明書を作成するには、「openssl.exe」を Web サイトからダウンロードすることができます。OpenSSL を使用してご自身の自己署名暗号キーや SSL 証明書を作成する方法については、p.114「自己署名プライベート証明書」を参照してください。

◆ CA 署名の SSL サーバー認証の取得

最も安全性が高いものとして、サードパーティー認証局(CA)が署名した証明書を使用されることを推奨します。サードパーティーの署名付証明書を得るには、CA の Web サイトで、SSL 認証を申請してください。CA より証明書とプライベートキーが送られてきたら、ご使用のコンピューターの任意の場所にそれを保存してください。

◆ プライベート認証のインポート

プライベート認証をインポートするには、下記を行ってください。

1. 「Private Key」(プライベートキー)の右側にある「**Browse**」(参照)をクリックしてください。プライベート暗号キーファイルがある場所を参照してから、それを選択してください。
2. 「Certificate」(証明書)の右側にある「**Browse**」(参照)をクリックしてください。証明書がある場所を参照してから、それを選択してください。
3. 「**Upload**」(アップロード)をクリックして、作業を終了してください。

注意:

1. 「**Restore Default**」(デフォルト値に復元)をクリックすると、本製品はデフォルトの ATEN の証明書を使用ようになります。
2. プライベート暗号キーおよび署名付証明書はともに同時にインポートしなければなりません。

証明書署名要求

証明書署名要求 (CSR) セクションでは、CA 署名付 SSL サーバー証明書を自動的に得て、インストールする方法を提供しています。

A dialog box titled "Certificate Signing Request". It contains a "Certificate:" label followed by a text input field and a "Browse..." button. Below this are four buttons arranged in a 2x2 grid: "Create CSR", "Get CSR", "Upload", and "Remove CSR".

この操作を行うには、下記の作業を行ってください。

1. 「**Create CSR**」をクリックしてください。下記のようなダイアログボックスが表示されます。

A dialog box titled "Certificate Signing Request". It contains several input fields: "Country Name (2 letter code):", "State or Province Name:", "Locality Name:", "Organization Name:", "Unit Name:", "Common Name:", and "Email Address:". Each field has a corresponding text input area. At the bottom are "Create" and "Close" buttons.

2. 下表の例のように、ご自身のサイトで有効なエントリーを欄に入力してください。

項目	例
Country(2 letter code) (国名 (2 文字コード))	TW
State or Province(都道府県)	Taiwan
Locality(市町村区)	Taipei
Organization(組織名)	Your Company, Ltd.
Unit(部署)	Tech Department
Common Name(ドメイン名)	mycompany.com 注意: これは証明書を有効にしたいサイトの正確なドメイン名です。サイトのドメイン名が www.mycompany.com の場合、mycompany.com だけを入力すると、証明書は有効となりません。
Email Address(E メールアドレス)	administrator@yourcompany.com

3. 全ての欄を入力したら、「Create」(作成)をクリックしてください。
入力した情報に基づいた自己署名証明書が CCVSR に保存されます。
4. 「Get CSR」をクリックして、ご使用のコンピューターの任意の場所に証明書ファイル(csr.cer)を保存してください。
これは、署名付 SSL 証明書を申請するためにサードパーティーCA に提供したファイルです。
5. CA が証明書を送付した後、それをご使用のコンピューターの任意の場所に保存してください。
「Browse」(参照)をクリックしてファイルの位置を探してから、「Upload」(アップロード)をクリックして CCVSR にそれを保存してください。

注意: ファイルをアップロードすると、CCVSR は特定された情報が合致しているかどうかファイルを確認します。合致している場合、ファイルは受け入れられ、合致していない場合は、ファイルは拒否されます。

証明書を削除したい場合(例えば、ドメイン名を変更したために新しい証明書に置き換えたい場合)は、「Remove CSR」をクリックしてください。

ビデオセッションレコーダー

「Video Session Recorder」(ビデオセッションレコーダー)メニューでは、ネットワークで利用可能なセカンダリ VSR サーバーを管理するために、これらのサーバーを追加することができます。セカンダリ VSR サーバーは、異なるコンピューター間のディスクスペースを統合するために代替コンピューター上にビデオログファイルを保存するのに使用されます。セカンダリ VSR サーバーとしてセカンダリコンピューターを設定するには、p.25「設定」を参照してください。「System Management」(システム管理)メニューバーから「Video Session Recorder」(ビデオセッションレコーダー)メニューを選択すると、下図のような画面が表示されます。



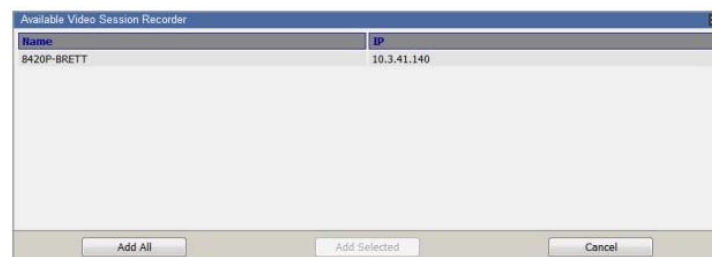
このメニューからは下記のことが設定できます。

- ◆ VSR サーバーの追加/削除
- ◆ VSR サーバーの有効/無効
- ◆ 最大記録時間の設定

セカンダリ VSR サーバーの追加

セカンダリ VSR サーバーを追加すると、そのログサーバー設定を行うことができます。追加したセカンダリ VSR サーバーはネットワーク上で利用可能なコンピューターでなければなりません。VSR サーバーを追加するには、下記の作業を行ってください。

1. 「Add」(追加)をクリックしてください。下図のようなポップアップ画面が表示されます。



2. リストから VSR サーバーを選択し、「**Add Selected**」(選択したものを追加)または「**Add All**」(全て追加)をクリックしてください。
3. VSR サーバーがメイン画面とサイドバーリストに表示されるようになります。

セカンダリ VSR サーバーの削除

VSR サーバーを削除するには、下記の作業を行ってください。

1. リストから VSR サーバーを選択してください。
2. 「**Delete**」(削除)をクリックしてください。

セカンダリ VSR サーバーの有効/無効

VSR サーバーを有効/無効にするには、下記の作業を行ってください。

メイン画面から VSR サーバーを選択し、チェックを入れて有効にするか、またはチェックを外して無効にしてから、「**Save**」(保存)をクリックしてください。

最長記録期間

このオプションを使うと、ここで入力した日数の間はビデオファイルを上書きされないようにすることができます。設定可能期間は 3～180 日間です。このオプションでは、保存ディスクがいっぱいになり、一番古いファイルを上書きしなければならなくなった場合に、ビデオセッションレコーダーがビデオファイルを何日間保存することができるかを設定することができます。デフォルト設定は 30 日間です。

例えば、最長記録期間を 7 日間と設定し、14 日後に保存ディスクがいっぱいになった場合、ビデオセッションレコーダーは 7 日以上前の古いビデオファイルを上書きし、現在から 7 日前までに作成されたビデオファイルは全てそのままとなります。

ログサーバー

「Log Servers」(ログサーバー)では、「Video Session Recorder」(ビデオセッションレコーダー)メニューバー (p.104「セカンダリ VSR サーバーの追加」参照)から追加されたセカンダリ VSR サーバーをサイドバーに一覧表示します。

サイドバーのリストからセカンダリ VSR サーバーを選択すると、下図のようにそのサーバーの「Video Session Recorder Settings」(ビデオレコーダー設定)画面が表示されます。

Video Session Recorder Settings				
IP:	<input type="text" value="10.3.41.52"/>			
Name:	<input type="text" value="VSR-Local"/>			
Description:	<input type="text"/>			
Drive	Capacity(GB)	Available Space(GB)	VSR Space(GB)	Used Percentage(%)
C:	58	32	<input type="text" value="0"/>	
D:	407	298	<input type="text" value="4"/>	95

この画面の設定項目に関する説明は下表のとおりです。

項目	説明
IP	ビデオセッションレコーダーの IP アドレスを表示します。
Name(名前)	この欄にビデオセッションレコーダーの名前を入力することができます。
Description(説明)	ビデオセッションレコーダーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
Drive(ドライブ)	ビデオログが保存可能なローカルディスクを表示します。
Capacity(空き容量)	ドライブが空いている際に、利用可能なディスクの空き容量を表示します。
Available Space(利用可能なスペース)	現在ドライブに保存可能なディスク容量をギガバイト単位で表示します。

(表は次ページに続きます。)

項目	説明
VSR Space (VSR 容量)	<p>この欄にビデオセッションレコーダーがドライブに記録したビデオログを保存する際に使用する最大容量を入力してください。ビデオログのサイズが VSR の容量を超える場合、ビデオセッションレコーダーは空き容量ができるまで、ビデオログの記録を中止します。</p> <p>注意: 空き容量が 2GB 以下で、「イベント通知」画面の「ログ」メニューで「ディスクフル」のイベントを有効にしている場合、VSR はイベントログ通知を作成します。(詳細は p.88「通知設定」参照)</p>
Used Percentage (使用済スペースのパーセンテージ)	VSR の使用済スペースのパーセンテージを表示します。

第 11 章

個人設定

概要

「Preference」(個人設定)タブでは、ユーザーが自分の作業環境を設定することができます。ビデオセッションレコーダーでは各ユーザープロファイルに個別の設定記録を保存し、ログインダイアログボックスに入力されたユーザーネームにしたがって作業環境を構築します。



この画面での設定内容は下表の通りです。

設定	機能
Language (言語)	ドロップダウンメニューを使用して、CCVSR インターフェースの言語を変更できます。オプションは、日本語、英語、中国語(繁体字/簡体字)、韓国語です。
Logout Timeout (ログアウトタイムアウト)	ここで設定した時間内にユーザーからの入力がない場合、ユーザーは自動的にログアウトされます。ビデオセッションレコーダーに再度アクセスするには、ログインをしなければなりません。 デフォルトは 30 分間です。

(表は次ページに続きます。)

設定	機能
Video Search Results Per Page(ビデオ検索結果の画面表示数)	<p>「Playback」(再生)タブからビデオログ検索結果が出された後に表示される検索結果数を設定します。20～100 の値を入力してください。</p> <p>デフォルトの検索結果表示数は 20 です。</p>
Maximum Video Clip Time Gap (ビデオクリップの最大タイムギャップ)	<p>ポートへの操作がないため、ビデオセッションレコーダーが記録を一時停止するまでの最大時間を分/秒単位で入力してください。操作が継続された瞬間に、ビデオセッションレコーダーは記録を再開し、ビデオログファイルが途切れることなく、作成されます。</p> <p>デフォルトは 5 秒間です。</p>
Welcome Message (ウェルカムメッセージ)	<p>サブメニューバーにウェルカムメッセージを表示/非表示するかを選択することができます。</p> <p>デフォルトは非表示となっています。</p>
Change Password (パスワードの変更)	<p>ユーザーのパスワードを変更するには、ボックスに現在のパスワードと新しいパスワードを入力してください。パスワード確認入力ボックスにも新しいパスワードを入力し、「Change Password」(パスワードの変更)をクリックして、変更を反映させてください。</p>

付録

製品仕様

CCVSR サーバー 推奨システム要件	
CPU	Intel® Pentium 4、2.6GHz、2G RAM(最小/4 ビデオセッション) Intel® Intel Core™ i5、2.5GHz、4G RAM(最大/12 ビデオセッション)
ハードドライブ	500MB 以上の空き容量
メモリー	DDR3 2GB RAM
ネットワーク	(100Mbps 以上の)イーサネットアダプター×1(最低) - ギガ LAN 推奨
OS	Windows XP、7、2003、2008

USB ライセンスキー 仕様		
動作環境	動作温度	0～40℃
	保管温度	-20～60℃
	湿度	0～80% RH、結露なきこと
ケース材料		メタル、プラスチック
重量		14g
サイズ(W×D×H)		83.6×27.7×13.7mm

対応 IP-KVM スイッチ

ビデオログサーバーがポートにアクセスしてビデオログを記録・作成することに対応する KVM スイッチは下記の通りです。

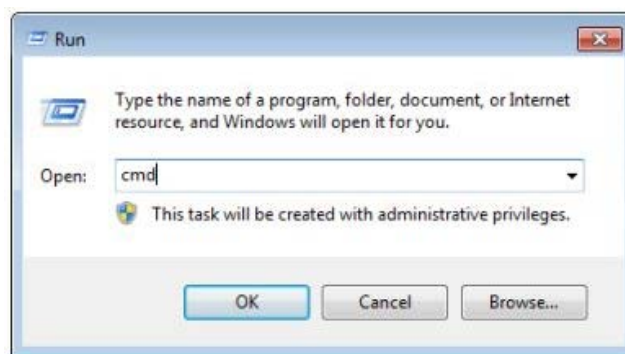
- ◆ KN2116A/KN2132/KN4116/KN4132
- ◆ KN2116v/KN2132v/KN4116v/KN4132v
- ◆ KN2124v/KN4124v/KN2140v/KN4140v
- ◆ KN1108v/KN1116v

注意: 上記の KVM スイッチは本マニュアルの初回発行時に対応可能となっているものです。弊社の Web にて、本マニュアルの発行後に対応スイッチが追加されているかどうかを確認してください。

Windows XP へのインストール

CCVSR を Windows XP を搭載したコンピュータにインストールするには、まず、IPv6 をインストールする必要があります。Windows XP に IPv6 をインストールするには、下記の作業を行ってください。

1. 「スタートメニュー」→「ファイル名を指定して実行」をクリックしてください。下図のような画面が表示されます。



2. テキストボックスに「cmd」と入力してから「OK」をクリックしてください。コマンドプロンプトが表示されます。

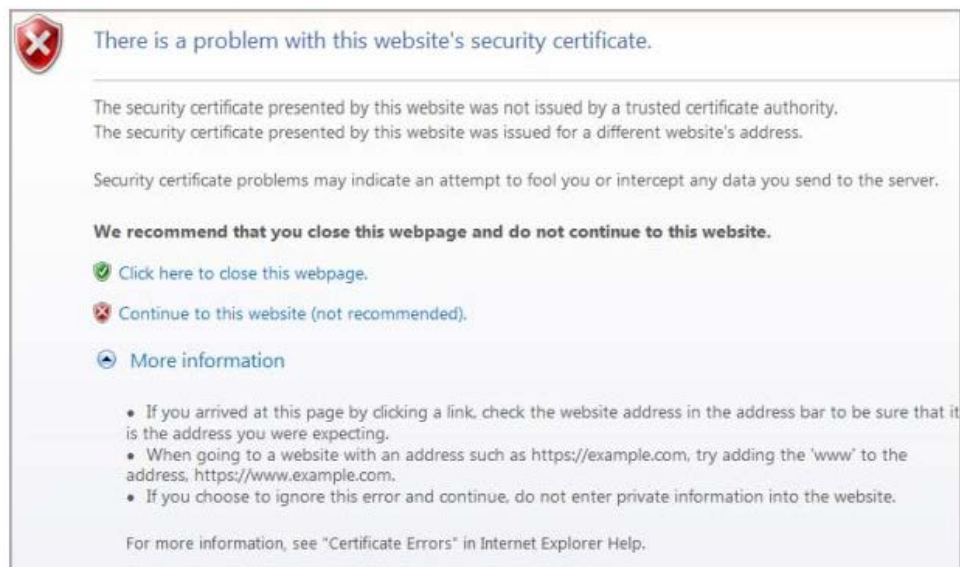


3. コマンドプロンプトに「cmd ipv6 install」と入力してから[Enter]を押してください。
4. IPv6 が自動的にインストールされ、p.18 に記載した CCVSR のインストールを続けることができます。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由で製品にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。この警告を無視して、下記をクリックしてください。



自己署名(プライベート)証明書

オリジナルの自己署名暗号キーや証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」を Web サイト(www.openssl.org)からダウンロードすることができます。オリジナルのプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ダウンロードした openssl.exe を解凍したディレクトリに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して openssl.exe を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. 上記のコマンドは 1 行で入力してください。パラメーターの入力途中で [Enter] キーを押さないでください。
2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください。(例: "ATEN International")

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com  
  
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```


ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリに「CA.key」(プライベートキー) と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という 2 つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「セキュリティ」メニュー(p.97 参照)の「プライベート認証」メニュー(p.101 参照)でアップロードします。